

大分県埋蔵文化財年報 13

(平成15年度のまとめ)

2005

大分県教育庁埋蔵文化財センター

大分県埋蔵文化財年報 13

(平成15年度のまとめ)

序 文

本書は、平成15年度に大分県内で行われた埋蔵文化財発掘調査の概要等に関わる資料を掲載したものです。

15年度も県下各地で数多くの発掘調査が実施され、史跡を含む重要遺跡の確認調査が注目を集めています。特に中津市の公園整備に伴う「中津城本丸南側」の石垣調査では、中津城が九州では最古の近世城郭であることが明らかになっています。また、大分市街地では、中世大友府内町跡の調査が継続されており、「史跡大友氏館跡」や周辺の町屋跡に関する資料の蓄積が進んでいます。

平成16年4月に開所した大分県教育庁埋蔵文化財センターでは、本書の刊行のほかにも国道10号古国府拡幅工事に伴う発掘調査をはじめとする調査成果や当センター収蔵の歴史的資料を広く県民に公開するため、現地説明会、各種研修会、展示会の開催など文化財の保護に関する普及啓発に積極的に取り組んでいるところです。

本書が、今後の埋蔵文化財保護行政を推進するうえでの基礎資料としてのみならず、学術・教育等の分野での資料として活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行に関しまして御協力くださいました各市町村教育委員会をはじめとする関係各位に対しまして、衷心からお礼を申し上げます。

平成 17 年 3 月 31 日

大分県教育庁埋蔵文化財センター所長
伊 藤 正 行

例 言

- 1 本書は、平成15（2003）年度に大分県内で行われた埋蔵文化財発掘調査等の基礎資料を掲載したものである。
- 2 平成15年度に大分県内で行われた本調査については、調査概要の一部を取り上げるとともに、試掘・確認調査については、その取り扱いを含め一覧表で掲載している。
- 3 新発見の遺跡については、「大分県遺跡地図」の大分県教育委員会の掲載様式に従い、従前の台帳（台帳番号）に追加したものである。
- 4 本書中の地形図は、国土地理院「2万5千分の1の地形図」を使用した。
- 5 本書は、大分県教育庁埋蔵文化財センターが平成16年4月に開所したことに伴い従来の「大分県文化財年報」を改めたものである。

目 次

I	平成15年度の大分県埋蔵文化財保護行政の現状	1
II	埋蔵文化財発掘調査届一覧	
1	平成15年度埋蔵文化財発掘届一覧（法57条の2）	2
2	平成15年度埋蔵文化財発掘届一覧（法57条の3）	3
3	平成15年度埋蔵文化財発掘届一覧（法58条の2）	4
III	平成15年度の調査概要	
1	平成15年度埋蔵文化財発掘調査一覧表	6
2	平成15年度各遺跡の調査概要	9
IV	平成15年度新発見遺跡一覧及び周知遺跡変更一覧	
1	新発見遺跡	28
2	周知遺跡の変更	30
V	平成15年度現地説明会・展示会・講演会・シンポジウム・研修	
1	現地説明会	33
2	展示会	33
3	講演会・シンポジウム	34
4	研修	35
VI	平成15年度発行の埋蔵文化財関係文献一覧	36

I 平成15年度の大分県埋蔵文化財保護行政の現状

(1) 発掘調査の傾向

平成15年度の発掘調査は70件程度あるが、公共事業に伴う例が90%、民間開発対応が10%となっており、調査経費は98%が公共事業に伴うもので大きな比率を占めてる。調査の内容では史跡を含む重要遺跡の確認調査が目を引く。大分市では、中世大友城下町跡の調査が継続されており、史跡大友氏館跡や周辺部の町屋跡に関する資料の蓄積が進んでいる。中津市では、平成13年度から公園整備に伴う中津城本丸南側の石垣調査を実施しているが、現在までの調査成果から九州では最古の近世城郭であることが明らかになっており、注目を集めている。日田市の史跡穴観音古墳では墳丘周辺の確認調査によって周溝を確認し、追加指定の検討資料とした。

(2) 発掘調査基準等

「九州地区発掘調査基準」は平成8年度に定められて埋蔵文化財の取扱い基準として運用されてきたが、平成10年9月29日付け文化庁次長通知及び平成12年4月1日施行の文化財保護法一部改正などに伴う発掘調査の客観化・標準化との整合を図るため、見直しを行ってきた。発掘基準は「調査規準」と「積算基準」の2つの基準で構成されている。「調査基準」については、平成13年度に改正された。「積算基準」は、平成12年12月14日付け文化庁通知「埋蔵文化財の本調査に関する積算基準について」を受けて見直し作業を平成13年度から進め、平成15年度に改正された。今後、この「九州地区発掘調査基準」が埋蔵文化財保護行政を推進する上で適切に運用されることが期待される。

(3) 埋蔵文化財関係統計

発掘調査の届出等の件数については、文化財保護法第57条の2（民間開発）の届出は102件で前年度比24%減、法第57条の3（公共事業）の通知が57件で前年度比7%減となっている。開発事業の届出件数が減少していることを示している。発掘調査件数では、法第57条（大学が行う学術調査等）による発掘調査の届出は該当がないものの、法第58条の2（地方公共団体が行う発掘調査）の届出は66件と前年度比43%増加している。本発掘調査費用についてみると、1,106,007千円で前年度比9%減となっているが、大規模な公共事業に伴う発掘調査の微減が理由といえる。出土文化財の認定及び発見通知の件数は、68件と前年度比12%増となっている。出土遺物量は3,885箱と前年度比33%減少している。

(4) 埋蔵文化財の普及・啓発

遺跡の現地説明会は7箇所で開催し、特に中世大友府内町跡の現地説明会では、3日間とこれまでになく長期間実施し、1,000人以上の見学者を迎え、県民の関心の高さを実感した。また、文化財巡回展「豊の交流の歴史を見る」を昨年度に引き続き、大分農業文化公園で開催し、古代・中世を中心とした大分の歴史を紹介、多くの来場者に好評を得た。文化財の保護意識の啓発に大きな効果があったものと思われる。埋蔵文化財の基礎資料については、平成7年度から15年度の9年間実施した中世城館調査事業を完了した。その結果、県内に569箇所存在を確認した。調査の成果は、文献編、現地調査編で構成されており、これまでに刊行した3冊と平成15年度の「大分の中世城館第四集総論編」及び「大分の中世城館別冊総合索引」にまとめた。今後、この報告書をもとに中世城館跡の保護・活用が進むものと考えられる。

II 埋蔵文化財発掘調査届一覧

1 平成15年度埋蔵文化財発掘届一覧（法57条の2）

遺跡名	原因者	所在地	調査者	原因	時代	根拠法
1 下田尻地区桑里跡	企業	大分市大字田尻下小松	大分市教委	グラウンド・駐車場	奈良・平安	57条の2
2 下部遺跡群	企業	大分市大字下郡	大分市教委	個人住宅	縄文・近世	57条の2
3 中世大友城下町跡	個人	大分市長浜町	大分市教委	個人住宅	中世	57条の2
4 米竹遺跡	個人	大分市大字小池原	大分市教委	集合住宅	弥生	57条の2
5 下田尻地区桑里跡	企業	大分市大字田尻	大分市教委	事務所	奈良・平安	57条の2
6 大波羅遺跡	企業	日田市田島	日田市教委	集合住宅	弥生・古墳・奈良	57条の2
7 古国府遺跡群	個人	大分市大字羽屋	大分市教委	個人住宅	57条の2	57条の2
8 下部遺跡群	個人	大分市大字下郡	大分市教委	個人住宅	弥生・近世	57条の2
9 賀来西遺跡	団体	大分市大字賀来	大分市教委	土地区画整理	弥生・古墳	57条の2
10 下田尻地区桑里跡	個人	大分市大字田尻	大分市教委	個人住宅・宅地造成	奈良・平安	57条の2
11 猪野遺跡	個人	大分市大字猪野	大分市教委	福祉施設	弥生・中世	57条の2
12 曲道跡	個人	大分市大字曲	大分市教委	共同住宅	弥生	57条の2
13 鶴崎町遺跡群	個人	大分市西鶴崎	大分市教委	店舗	近世	57条の2
14 羽田遺跡	個人	大分市大字片島	大分市教委	個人住宅	弥生	57条の2
15 政所遺跡	個人	大分市横田	大分市教委	宅地造成	弥生	57条の2
16 中世大友城下町跡	個人	大分市顕徳町	大分市教委	個人住宅	中世	57条の2
17 上野遺跡群	宗教法人	大分市上野丘	大分市教委	宅地造成	弥生・中世	57条の2
18 古国府遺跡群	個人	大分市大字古国府	大分市教委	個人住宅	弥生	57条の2
19 二日川遺跡	企業	大分市大字横尾	大分市教委	集合住宅	弥生	57条の2
20 中世大友城下町跡	個人	大分市顕徳町	大分市教委	個人住宅兼又は店舗		57条の2
21 東田室遺跡群	企業	大分市新町	大分市教委	集合住宅	弥生	57条の2
22 中世大友城下町跡	個人	大分市顕徳町	大分市教委	個人住宅	中世	57条の2
23 臼杵城下町遺跡	企業	臼杵市大字臼杵	臼杵市教委	店舗	近世	57条の2
24 野田遺跡	企業	大分市大字野田	大分市教委	宅地造成	旧石器・縄文	57条の2
25 下部遺跡群	個人	大分市大字下郡	大分市教委	個人住宅	弥生	57条の2
26 下部遺跡群	企業	大分市大字下郡	大分市教委	事務所	弥生	57条の2
27 古国府遺跡群	個人	大分市大字羽屋	大分市教委	個人住宅	弥生	57条の2
28 津守遺跡	個人	大分市大字津守	大分市教委	集合住宅	弥生	57条の2
29 下部遺跡群	個人	大分市大字下郡	大分市教委	集合住宅	縄文・中世	57条の2
30 中世大友城下町跡	個人	大分市顕徳町	大分市教委	集合住宅	中世	57条の2
31 津守遺跡	個人	大分市大字津守	大分市教委	共同住宅	弥生	57条の2
32 中世大友城下町跡	個人	大分市顕徳町	大分市教委	個人住宅	中世	57条の2
33 古国府遺跡群	個人	大分市大字羽屋	大分市教委	個人住宅	弥生・中世	57条の2
34 古国府遺跡群	個人	大分市大字羽屋	大分市教委	個人住宅	弥生・中世	57条の2
35 日田桑里四反畑地区	企業	日田市淡窓	日田市教委	宅地造成	奈良・平安	57条の2
36 中世大友城下町跡	個人	大分市顕徳町	大分市教委	医院併用住宅	中世	57条の2
37 羽田遺跡	個人	大分市大字片島	大分市教委	個人住宅	弥生	57条の2
38 中世大友城下町跡	個人	大分市顕徳町	大分市教委	個人住宅	中世	57条の2
39 浜遺跡	個人	大分市沙見	大分市教委	個人住宅	弥生・古墳	57条の2
40 古国府遺跡群	企業	大分市大字羽屋	大分市教委	マンションモデルルーム	弥生・中世	57条の2
41 下部遺跡群	企業	大分市大字下郡	大分市教委	個人住宅	縄文・中世	57条の2
42 下部遺跡群	個人	大分市大字下郡	大分市教委	個人住宅	縄文・中世	57条の2
43 羽田遺跡	個人	大分市大字羽田	大分市教委	個人住宅	弥生	57条の2
44 上野遺跡群	企業	大分市上野丘	大分市教委	集合住宅	弥生・中世	57条の2
45 丹生川坂ノ市桑里跡	企業	大分市大字佐野	大分市教委	工場	弥生	57条の2
46 城下町遺跡(虎塚跡)	企業	竹田市大字竹田	竹田市教委	工場	近世	57条の2
47 下田尻地区桑里跡	個人	大分市大字田尻	大分市教委	個人住宅	奈良・平安	57条の2
48 古国府遺跡群	企業	大分市大字羽屋	大分市教委	宅地造成	弥生・中世	57条の2
49 中世大友城下町跡	個人	大分市顕徳町	大分市教委	個人住宅	中世	57条の2
50 塔の元遺跡	法人	玖珠町大字隈	玖珠町教委	老人福祉施設	弥生	57条の2
51 玉沢地区桑里遺跡	法人	大分市大字大坪	大分市教委	その他の建物	弥生・中世	57条の2
52 若宮八幡宮遺跡	個人	大分市上野町	大分市教委	宅地造成	弥生・中世	57条の2
53 政所遺跡	個人	大分市横田	大分市教委	個人住宅	弥生	57条の2
54 羽田遺跡	個人	大分市大字羽田	大分市教委	個人住宅・宅地造成	弥生・古墳	57条の2
55 上野第2遺跡	個人	日田市大字上野	日田市教委	土砂採集	弥生	57条の2
56 佐伯城下町	企業	佐伯市大字	佐伯市教委	工場	近世	57条の2

遺跡名	原因者	所在地	調査者	原因	時代	根拠法
57 宮崎遺跡	企業	大分市大字宮崎	大分市教委	立体駐車場	弥生	57条の2
58 中世大友城下町跡	個人	大分市鐘町	大分市教委	個人住宅	中世	57条の2
59 法鏡寺遺跡	企業	宇佐市大字法鏡寺	宇佐市教委	宅地造成	古墳・奈良・中世・近世	57条の2
60 南石垣遺跡	個人	別府市石垣石	別府市教委	事務所	弥生	57条の2
61 中世大友城下町跡	個人	大分市鐘町	大分市教委	個人住宅	中世	57条の2
62 横尾遺跡	企業	大分市大字横尾	大分市教委	電気等	縄文～中世	57条の2
63 二日川遺跡	個人	大分市大字横尾	大分市教委	集合住宅	弥生	57条の2
64 二日川遺跡	個人	大分市大字横尾	大分市教委	集合住宅	弥生	57条の2
65 古国府遺跡群	個人	大分市大字奥田	大分市教委	個人住宅	弥生～中世	57条の2
66 小池原貝塚	企業	大分市大字小池原	大分市教委	店舗	縄文	57条の2
67 下郡遺跡群	個人	大分市大字下郡	大分市教委	個人住宅	縄文～近世	57条の2
68 古国府遺跡群	個人	大分市大字古国府	大分市教委	集合住宅	弥生～中世	57条の2
69 中世大友城下町跡	個人	大分市元町	大分市教委	集合住宅	中世	57条の2
70 下郡遺跡群	個人	大分市大字下郡	大分市教委	個人住宅	縄文～近世	57条の2
71 下郡遺跡群	個人	大分市大字下郡	大分市教委	個人住宅	縄文～近世	57条の2
72 宮園遺跡	法人	別府市大字鉄輪	別府市教委	地域交流ホール	弥生	57条の2
73 末行道跡	個人	別府市石垣東	別府市教委	集合住宅	縄文・弥生	57条の2
74 中屋敷遺跡	個人	宇佐市大字上田	宇佐市教委	個人住宅・工場跡は店舗	弥生・古墳・中世・近世	57条の2
75 下北遺跡	企業	大分県挾間町大字北方	挾間町教委	店舗	縄文・弥生	57条の2
76 木ノ元山の陣	企業	大分県三重町大字百枝	三重町教委	携帯電話基地局建設	近世	57条の2
77 安岐城跡	企業	東国府重安岐町大字下原	安岐町教委	駐車場	中世・近世	57条の2
78 浜遺跡	個人	大分市沙見	大分市教委	個人住宅	弥生・古墳	57条の2
79 沖代地区糸里跡	個人	中津市大字万田	中津市教委	集合住宅	古墳	57条の2
80 下郡遺跡群	企業	大分市大字下郡	大分市教委	店舗	縄文～近世	57条の2
81 米良草遺跡	個人	大分市大字猪野	大分市教委	集合住宅	弥生	57条の2
82 古国府遺跡群	個人	大分市大字古国府	大分市教委	長屋住宅	弥生～中世	57条の2
83 川島遺跡	企業	宇佐市大字法鏡寺	宇佐市教委	店舗	弥生	57条の2
84 二日川遺跡	個人	大分市大字横尾	大分市教委	宅地造成、グループホーム	弥生	57条の2
85 二日川遺跡	企業	大分市大字横尾	大分市教委	集合住宅	弥生	57条の2
86 国分遺跡	個人	大分市大字四分	大分市教委	個人住宅	奈良・平安	57条の2
87 下藤遺跡	企業	大分県野津町大字原	野津町教委	携帯電話アンテナ	旧石器・その他	57条の2
88 中世大友城下町跡	企業	大分市六坊北町	大分市教委	集合住宅	中世	57条の2
89 丹生川坂ノ市桑里跡	企業	大分市大字里	大分市教委	工場	弥生・奈良・平安	57条の2
90 沖浜遺跡	法人	大分市勢家町	大分市教委	集合住宅	中世	57条の2
91 玉沢地区糸里跡	法人	大分市大字市	大分市教委	病院	弥生～中世	57条の2
92 古国府遺跡群	個人	大分市大字羽屋	大分市教委	個人住宅・工場跡は店舗	弥生～中世	57条の2
93 二日川遺跡	個人	大分市大字横尾	大分市教委	集合住宅	弥生	57条の2
94 下郡遺跡群	個人	大分市大字下郡	大分市教委	店舗	縄文～近世	57条の2
95 鶴崎町遺跡群(三軒町)	法人	大分市東鶴崎	大分市教委	病院	近世	57条の2
96 若宮八幡宮遺跡	個人	大分市上野町	大分市教委	個人住宅	弥生～中世	57条の2
97 金剛山長安寺	宗教法人	豊後高田市大字加礼川	豊後高田市教委	道路・墓地	平安・中世	57条の2
98 別府・下居原敷遺跡	個人	宇佐市大字別府	宇佐市教委	南科医院の新築	弥生・奈良・近世	57条の2
99 丹生川・坂ノ市桑里跡	個人	大分市大字佐野	大分市教委	工場	奈良・平安	57条の2
100 中世大友城下町跡	個人	大分市長浜町	大分市教委	集合住宅	中世	57条の2
101 下田尻地区糸里跡	個人	大分市大字田尻	大分市教委	集合住宅	奈良・平安	57条の2
102 二日川遺跡	個人	大分市大字横尾	大分市教委	集合住宅	弥生	57条の2

2 平成15年度埋蔵文化財発掘届一覧(法57条の3)

遺跡名	原因者	所在地	調査者	原因	時代	根拠法
1 北友田横穴群	日田土木事務所長	日田市大字友田	大分県教委	急傾斜地崩壊対策	古墳	57条の3
2 求来里平島遺跡	日田土木事務所長	日田市大字求来里	大分県教委	河川	古墳	57条の3
3 坂手隈横穴墓群	中津土木事務所長	中津市大字相原	大分県教委	道路	古墳	57条の3
4 鶴崎町遺跡群	大分市長	大分市東鶴崎	大分市教委	その他の建物	近世	57条の3
5 玉沢地区糸里跡	大分市長	大分市大字玉沢	大分市教委	その他の建物	弥生・古墳・近世	57条の3
6 中世大友城下町跡	大分市長	大分市彌生町・六坊北町	大分市教委	道路	中世	57条の3
7 上畑遺跡	中津土木事務所長	中津市大字丸丸	中津市教委	道路	中世	57条の3
8 大丸川流域遺跡	中津市長	中津市大字福島	中津市教委	し尿処理場建設	弥生・古墳	57条の3
9 鶴屋城跡	佐伯市長	佐伯市宇城山	佐伯市教委	猪防護構設置	近世	57条の3

	遺跡名	原因者	所在地	調査者	原因	時代	根拠表
10	中屋敷遺跡	宇佐市長	宇佐市大字上田	宇佐市教委	道路	中世・近世	57条の3
11	賀来西遺跡	大分土木事務所長	大分市大字賀来西	大分県教委	道路・河川	弥生	57条の3
12	城原里遺跡	大分市長	大分市大字里	大分市教委	道路	奈良	57条の3
13	坂手横穴六墓群	中津土木事務所長	中津市大字相原	大分県教委	道路	古墳	57条の3
14	丹生川坂ノ市条里跡	大分土木事務所長	大分市大字丹川	大分県教委	道路	その他	57条の3
15	丹生川坂ノ市条里跡	大分土木事務所長	大分市大字丹川	大分県教委	道路	その他	57条の3
16	寺田遺跡(古屋敷)	日田地方振興局長	日田市大字夜明	大分県教委	農業基盤整備事業	中世	57条の3
17	大肥牟里遺跡(祝床遺跡)	日田地方振興局長	日田市大字夜明	大分県教委	農業基盤整備事業	中世	57条の3
18	古国府遺跡群	国土交通省九州地方振興局長	大分市大字古国府	大分県教委	集合住宅・倉庫	弥生・古墳・平安・中世	57条の3
19	賀来中学校遺跡	大分市長	大分市大字賀来	大分市教委	児童育成クラブ建設	弥生	57条の3
20	下志村遺跡	大分市長	大分市角子原	大分市教委	学校建設	古墳・中世・近世	57条の3
21	辻遺跡	大分土木事務所長	大分市大字辻一吉野原	大分県教委	道路	旧石器	57条の3
22	牟里跡	国土交通省九州地方振興局長	日田市上手町	大分県教委	河川	中世	57条の3
23	若宮八幡宮遺跡	大分市長	大分市上野町	大分市教委	学校建設	弥生・古墳・平安・中世	57条の3
24	中世大友城下町跡	県大分駅周辺総合整備事務所長	大分市大字六坊	大分県教委	道路	中世	57条の3
25	高田城跡	豊後高田市開発公社	豊後高田市大字玉津	豊後高田市教委	宅地造成	中世・近世	57条の3
26	東田室遺跡	大分市長	大分市田室町	大分市教委	道路	弥生	57条の3
27	下郡遺跡群	大分市長	大分市大字下郡	大分市教委	土地区画整理・公園造成	弥生・古墳・奈良・中世	57条の3
28	日田牟里跡	大分社会保険事務局長	日田市大字十二町	日田市教委	集合住宅	その他	57条の3
29	穂牟城跡	佐伯土木事務所長	佐伯市大字上岡	大分県教委	道路	中世	57条の3
30	宮苑井ノ口遺跡	大分土木事務所長	大分市大字宮苑	大分県教委	道路	弥生～古墳	57条の3
31	穂牟城跡	佐伯市長	佐伯市大字上岡	佐伯市教委	集合住宅	中世	57条の3
32	古庄里遺跡	中津土木事務所長	本耶馬溪町大字落合	大分県教委	道路	中世	57条の3
33	通り山遺跡群	萩町長	萩町大字柏原	萩町教委	宅地造成	縄文	57条の3
34	宇山城跡	佐伯土木事務所長	佐伯市大字長良	大分県教委	急傾斜地崩壊対策	中世	57条の3
35	若宮八幡宮遺跡	県大分駅周辺総合整備事務所長	大分市大字上野町	大分県教委	道路	弥生	57条の3
36	井尻日焼田遺跡	九重町長	九重町大字松木	九重町教委	宅地造成	古墳・奈良・中世	57条の3
37	下郡遺跡群	大分市長	大分市大字下郡	大分市教委	土地区画整理	中世・近世	57条の3
38	庵の平遺跡	国土交通省九州地方振興局長	千歳村大字下山	千歳村教委	道路	中世	57条の3
39	中津城下町遺跡	中津市長	中津市	中津市教委	道路	近世	57条の3
40	横尾遺跡	大分市長	大分市大字横尾	大分市教委	宅地造成	弥生・平安・中世	57条の3
41	横尾遺跡	大分市長	大分市大字横尾	大分市教委	道路・宅地造成	弥生・平安・中世	57条の3
42	八幡中学校遺跡	玖珠町長	玖珠町大字太田	玖珠町教委	河川	弥生	57条の3
43	金田遺跡	日田土木事務所	日田市	日田市教委	河川	弥生・古墳・中世	57条の3
44	中世大友城下町跡	大分市長	大分市大字大分	大分市教委	下水道工事	中世	57条の3
45	町ノ坪遺跡	県日田地方振興局長	日田市大字求来里	日田市教委	農業基盤整備事業	弥生・古墳・奈良	57条の3
46	小倉池遺跡	県宇佐内陸地方振興局長	宇佐市大字上元重	宇佐市教委	その他の農業関連事業	奈良・平安	57条の3
47	馬下遺跡	中津土木事務所長	中津市大字丸	中津市教委	道路	奈良	57条の3
48	湯尻遺跡	地方議員共済組合大分県支部長	日田市大字北豆田	日田市教委	集合住宅	弥生	57条の3
49	十郎園遺跡	県西高地方振興局長	真玉町大字白野	真玉町教委	農業基盤整備事業	弥生	57条の3
50	天神九道遺跡	県西高地方振興局長	真玉町大字白野	真玉町教委	農業基盤整備事業	弥生	57条の3
51	川原牟里遺跡	県西高地方振興局長	豊後高田市大字美和	豊後高田市教委	農業基盤整備事業	奈良・平安	57条の3
52	杵築城下町	杵築市長	杵築市大字杵築	杵築市教委	学校建設	中世	57条の3
53	中世大友府内町跡	大分市長	大分市顕徳町	大分市教委	道路	中世	57条の3
54	市用遺跡	県竹田直入地方振興局長	竹田市大字市用	竹田市教委	農業基盤整備事業	弥生・古墳	57条の3
55	丹生川坂ノ市条里跡	佐伯市長	佐伯市内町	佐伯市教委	道路	奈良	57条の3
56	佐伯川坂ノ市条里跡	県警備九州隊司令部大分分署事務所長	大分市大字市尾	大分市教委	宅地造成	奈良・平安	57条の3
57	中世大友城下町跡	国土交通省九州地方振興局長	大分市顕徳町	大分市教委	都市計画による土地区画	中世	57条の3

3 平成15年度埋蔵文化財発掘届一覧(法58条の2)

	遺跡名	所在地	調査者	原因	時代	根拠表
1	坂手横穴六墓群	中津市大字相原	大分県教委	ガス・水道・電気等	古墳	58条の2
2	横尾遺跡第88次調査	大分市大字横尾	大分市教委	市内道路確認調査	弥生・古墳	58条の2
3	横尾遺跡第87次調査	大分市大字横尾	大分市教委	市内道路確認調査	縄文・中世	58条の2
4	横尾遺跡第86次調査	大分市大字横尾	大分市教委	市内道路確認調査	縄文・中世	58条の2
5	中津城	中津市大字相原	中津市教委	中世	近世	58条の2
6	中世大友府内町跡	大分市大字六坊北町	大分市教委	鉄道	中世	58条の2
7	高浜遺跡群土木園地区	大野郡千歳村大字長峰	大分県教委	道路	弥生・中世	58条の2

	遺跡名	所在地	調査者	原因	時代	根拠法
8	諸田南遺跡	中津市	大分県教委	道路	古墳・中世	58条の2
9	中津城	中津市	中津市教委	芸術文化センター	近世	58条の2
10	中屋敷遺跡	宇佐市大字上田	宇佐市教委	道路	中世・近世	58条の2
11	高野遺跡	日田市大字夜明	日田市教委	農業基盤整備事業(農道を含む)	弥生・中世	58条の2
12	寺田遺跡(古屋敷)	日田市大字夜明	日田市教委	農業基盤整備事業(農道を含む)	縄文・中世	58条の2
13	上畑成遺跡	中津市大字大丸	大分県教委	道路	中世	58条の2
14	高添遺跡群石五道原第6次調査区	大野郡千歳村大字長峰	大分県教委	道路	弥生・古墳	58条の2
15	桑里跡(大肥桑里遺跡)(祝原遺跡)	日田市大字夜明	日田市教委	農業基盤整備事業(農道を含む)	中世	58条の2
16	城下町遺跡(南方家原敷跡)	竹田市大字竹田	竹田市教委	造成工事に伴う周辺整備	近世	58条の2
17	中世大友府内町跡第32次調査	大分市顕徳町	大分市教委	宅地造成	室町・戦国・安土・桃山	58条の2
18	中世大友府内町跡第33次調査	大分市大字沖	大分市教委	市内道路確認調査	平安・戦国・安土・桃山・近世	58条の2
19	日田桑里四反畑地区	日田市淡窓	日田市教委	集合住宅	奈良・平安	58条の2
20	城原・里遺跡第6次調査	大分市大字里	大分市教委	道路拡幅事業	弥生	58条の2
21	鶴崎遺跡群	大分市東鶴崎	大分市教委	鶴崎支所建設	江戸	58条の2
22	柳半礼城跡	佐伯市大字門前	大分県教委	道路	縄文・中世	58条の2
23	中世大友城下町跡	大分市元町・錦町	大分県教委	道路(国道10号古岡寺拡幅事業)	中世	58条の2
24	大井遺跡	大野郡大野町大字杉園	大分県教委	道路	弥生・古墳	58条の2
25	高添遺跡群出口地区	大野郡千歳村大字長峰	大分県教委	道路	弥生・古墳	58条の2
26	雫の元遺跡	玖珠郡玖珠町大字大隈	玖珠町教委	老人福祉施設	弥生	58条の2
27	上野第2遺跡	日田市大字上野	日田市教委	土砂採集	弥生・奈良	58条の2
28	古庄屋遺跡	下毛郡大字本耶馬溪町	大分県教委	道路	中世	58条の2
29	東田室遺跡第11次調査	大分市田室町	大分市教委	道路建設	弥生・古墳・平安	58条の2
30	下郡遺跡群第140次調査	大分市大字下郡	大分市教委	下郡地区整理事業	奈良・古墳・中世・近世	58条の2
31	若宮八幡宮遺跡	大分市上野町	大分県教委	道路	弥生・中世	58条の2
32	中世大友城下町跡	大分市六坊南町	大分県教委	道路	中世	58条の2
33	中世大友府内町跡第32-2次調査	大分市顕徳町	大分市教委	道路改良	室町・安土・戦国・近世	58条の2
34	中世大友府内町跡第25-1次調査	大分市六坊北町	大分市教委	道路建設	室町・戦国・近世	58条の2
35	若宮八幡宮遺跡	大分市上野町	大分市教委	学校建設	古墳・古代	58条の2
36	庵の平遺跡	大野郡千歳村大字下山	大分県教委	道路	中世	58条の2
37	中津城下町遺跡	中津市	中津市教委	道路の拡幅	近世	58条の2
38	城原・里遺跡第7次調査	大分市大字里	大分市教委	確認調査	飛鳥	58条の2
39	杵築城下町遺跡	杵築市大字杵築	大分県教委	道路	中世・近世	58条の2
40	安岐城跡	東国東郡安岐町大字下屋	安岐町教委	駐車場	近世	58条の2
41	柳半礼城跡	佐伯市大字上園	佐伯市教委	集合住宅	古墳・平安・中世・近世	58条の2
42	八幡中学校遺跡	玖珠郡玖珠町大字太田	玖珠町教委	河川	弥生	58条の2
43	穴観音古墳	日田市大字内河野	日田市教委	遺跡整備	古墳	58条の2
44	北友田横穴墓群	日田市尾字友田	大分県教委	急傾斜地崩壊対策事業	古墳	58条の2
45	中世大友城下町跡(中世府内町跡第37調査)	大分市六坊北町	大分市教委	集合住宅に伴う調査	中世	58条の2
46	馬下遺跡	中津市大字大丸	大分県教委	道路	奈良	58条の2
47	高森城跡	宇佐市大字高森	宇佐市教委	その他開発	弥生・古墳・中世・近世	58条の2
48	玉沢地区桑里跡	大分市大字大坪	大分市教委	病院建設	弥生・古墳・古代・中世	58条の2
49	永山市政所跡	日田市大字九山	日田市教委	遺跡整備	近世	58条の2
50	横尾遺跡第89次調査	大分市大字横尾	大分市教委	横尾区画整理事業	弥生・平安・中世	58条の2
51	横尾遺跡第90次調査	大分市大字横尾	大分市教委	横尾区画整理事業	弥生・平安・中世	58条の2
52	鶴崎遺跡群(三軒町)	大分市東鶴崎	大分市教委	病院建設	近世	58条の2
53	小倉池遺跡	宇佐市大字上元重	宇佐市教委	その他の農業関連事業	奈良・平安	58条の2
54	横尾遺跡第91次調査	大分市大字横尾	大分市教委	道路改良	縄文・中世	58条の2
55	中世大友府内町跡第38次調査	大分市錦町	大分市教委	道路改良	中世	58条の2
56	大友氏館跡第13・14・15次調査	大分市顕徳町	大分市教委	確認調査	古代・室町・戦国・安土・近世	58条の2
57	中世大友府内町跡第39次調査	大分市顕徳町	大分市教委	確認調査	戦国・近世	58条の2
58	中世大友府内町跡第26次調査	大分市顕徳町	大分市教委	道路改良	室町・戦国・安土	58条の2
59	中津城	中津市	中津市教委	石垣修理に伴う調査	近世	58条の2
60	中津城	中津市	中津市教委	遺跡整備	近世	58条の2
61	玉沢地区桑里跡	大分市大字玉沢	大分市教委	植田支所建設	弥生・古墳・古代・中世・近世	58条の2
62	町ノ坪遺跡	日田市大字求来里	日田市教委	農業基盤整備事業(農道を含む)	弥生・古墳・奈良・中世・近世	58条の2
63	別府・下居屋敷遺跡	宇佐市大字別府	宇佐市教委	その他建物	弥生・奈良・近世	58条の2
64	四日市遺跡	玖珠郡玖珠町大字四日市	大分県教委	工業団地造成	弥生・古墳	58条の2
65	中世大友府内町跡第25次-2調査	大分市六坊北町	大分市教委	道路建設	室町・戦国・近世	58条の2
66	横尾遺跡第82-3次調査	大分市大字横尾	大分市教委	道路改良	縄文・中世	58条の2

Ⅲ 平成15年度の調査概要

1 平成15年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

大字は概要記載分

番号	遺跡名	所在地	調査主体	調査担当者	調査面積	調査期間	調査内容	調査原因	取り扱い
1	大丸川流域遺跡	中津市大字福島	中津市教委	浦井 直幸	4,200㎡	030421～030422	遺構なし	屎尿処理棟建設	試掘調査
2	新御池周辺遺跡	中津市大字大員	中津市教委	浦井 直幸	2,500	030624～030625	遺構なし	市道拡幅	試掘調査
3	神代地区東部跡水地区	中津市大字宮伏	中津市教委	浦井 直幸	400	030926	遺構なし	リハビリテーション建設	試掘調査
4	神代地区東部跡5号地区	中津市大字方田	中津市教委	浦井 直幸	966	031002～031027	湖沼の埋没跡、沢尻跡	アパート建設	試掘調査
5	東浦遺跡	中津市大字永浜	中津市教委	浦井 直幸	1,320	031209	遺構なし	体育館建設	試掘調査
6	大池山遺跡	中津市大字永浜	中津市教委	浦井 直幸	3,461	031216～031218	遺構なし	老人ホーム建設	試掘調査
7	福島遺跡	中津市大字福島	中津市教委	浦井 直幸	691	040302～040331	弥生時代の土坑	農道拡幅	本調査
8	柳垣遺跡	中津市大字福島	中津市教委	浦井 直幸	34	040302～040331	縄文時代住居跡片層	農道拡幅	本調査
9	中津城三ノ丸跡	中津市	中津市教委	花崎 徹	1,101	030407～030922	遺構なし	公園文化センター建設	本調査
10	中津城下町遺跡調査地区	中津市	中津市教委	花崎 徹	1,140	031001～040218	近世焼土坑、溝水道	市道拡幅	本調査
11		中津市大字大員	中津市教委	花崎 徹	20,000	040223～040319	時期不明ピット	体育施設建設	試掘
12	神代地区東部跡4号地区	中津市大字方田	中津市教委	花崎 徹	2,028	040323～040330	古墳、奈良時代の遺物	店舗建設	試掘
13	中津城	中津市	中津市教委	高崎 肇子	700	030401～040330	石垣遺跡、堀の底の確認	石垣修理	本調査
14	中津城	中津市	中津市教委	高崎 肇子	600	030804～040330	経路跡跡等 柱石の目録	保存整備	本調査
15	高野城	豊後高田市大字津	豊後高田市教委	河野 典之	2,000	030714～031114	中央のピット、土坑	宅地造成	本調査
16	川原条里	豊後高田市大字美和	豊後高田市教委	岩男 真吾	15ha	031112、031210	弥生時代のピット	圃場整備	試掘調査
17	中野敷遺跡	宇佐市大字上田	宇佐市教委	川谷 浩	3,750	030411～040331	近世集落	道路建設	本調査
18	史跡宇佐神宮境内	宇佐市大字南宇佐	宇佐市教委	江藤 和幸	4,500	030627～031125	近世土坑、御水道	遺構新設	本調査
19	高森城跡	宇佐市大字高森	宇佐市教委	林 一也	40	030715～031225	土塁	重要遺跡確認	本調査
20	小倉の池庵寺	宇佐市大字上元重	宇佐市教委	佐藤良二郎	1,600	031014～031219	掘立柱建物跡・溝	堤防改修工事	本調査
21	川島遺跡	宇佐市大字法蔵寺	宇佐市教委	江藤 和幸	18,000	031126～031202	掘立柱遺構・溝	造成施設建設	確認調査
22	法蔵寺遺跡	宇佐市大字法蔵寺	宇佐市教委	川谷 浩	210	030819～030822	溝・土坑・柱穴	宅地造成	確認調査
23	宇佐下層敷遺跡	宇佐市大字別府	宇佐市教委	川谷 浩	11	040319	遺構なし	病院建設	確認調査
24	法蔵寺庵寺遺跡	宇佐市大字法蔵寺	宇佐市教委	江藤 和幸	4,250	031017～040331	掘立柱建物跡(5棟)	史跡の内容確認	本調査
25	塔尾遺跡(仮称)	安心町龍町尾	安心町教委	メ野 勝哉	3,000	031020～031029	柱穴跡、住居跡、石塔	圃場整備	試掘調査
26	春木芳元遺跡	別府市石垣西	別府市教委	水野 康洋	220.8	030430	遺物・遺構なし	宅地造成	試掘調査
27	春木芳元遺跡	別府市大字錦見	別府市教委	水野 康洋	941.0	030605	遺物・遺構なし	宅地造成	試掘調査
28	南石垣遺跡	別府市石垣西	別府市教委	水野 康洋	157.78	030908	遺物・遺構なし	事務所建設	試掘調査
29	宮園遺跡	別府市大字鉢輪	別府市教委	水野 康洋	1,185.42	030929～030930	遺物・遺構なし	地域交流ホール	試掘調査
30	末行遺跡	別府市石垣東	別府市教委	水野 康洋	998.16	031010	遺物・遺構なし	共同住宅建設	試掘調査
31	杵築城下町	杵築市大字杵築	杵築市教委	平川 儀次	125.0	040213～040229	石垣	校舎建設	盛土保存
32	国見町鶴尾	国見町鶴尾	国見町教委	高見 謙一	1,700.0	040308	遺物・遺構なし	圃場整備	試掘調査
33	国見町古江	国見町教委	高見 謙一	7,200.0	040309～040310	遺物・遺構なし	圃場整備	試掘調査	
34	安岐城跡土塁	安岐町古城	安岐町教委	松本 啓子	150.0	031020～031031	土塁の構築方法確認	駐車場造成	本調査
35	三浦梅園旧宅	安岐町	安岐町教委	松本 啓子	200.0	030808～030829	礎石の位置確認	保存修理	本調査
36	神の前遺跡	山香町大字内河野	山香町教委	帯刀 孝一	18,300.0	040317～040320	中世の塚	農産関係	本調査
37	中世大友管内町跡17次3	大分市大字大分	大分市教委	河野史郎他	2,000.0	020507～031222	中世の溝跡、土坑跡	下水道施設建設	本調査
38	中世大友管内町跡25次	大分市六坊北町	大分市教委	佐藤徳文他	590.0	030507～040321	中世の溝跡、土坑跡	道路建設	本調査
39	中世大友管内町跡26次	大分市顕徳町	大分市教委	五十川雄也	230.0	031106～040317	中世の柱穴、井戸跡、土坑、溝跡	道路建設	本調査
40	中世大友管内町跡32次	大分市顕徳町	大分市教委	五十川雄也	167.0	030609～030731	中世の柱穴、井戸跡、土坑	宅地開発	確認調査
41	中世大友管内町跡32-2次	大分市顕徳町	大分市教委	五十川雄也	70.0	030804～031024	中世の溝跡、井戸跡、土坑	道路建設	本調査
42	中世大友管内町跡33次	大分市大字大分	大分市教委	佐藤 道文	820.0	030609～030726	中世の溝跡遺構、溝跡、火災処理土坑	大友氏関連遺跡	確認調査
43	中世大友管内町跡37次	大分市六坊北町	大分市教委	池邊千太郎他	37.0	040208～031219	中世の土坑、柱穴跡	集合住宅建設	本調査
44	中世大友管内町跡210次	大分市鉢輪	大分市教委	中西 武尚	210.0	031122～040329	中世の溝跡、井戸跡、土坑	共同住宅建設	確認調査
45	中世大友管内町跡38次	大分市顕徳町	大分市教委	佐藤 道文	20.0	040302～040305	石積み遺構	道路施設関連	確認調査
46	大友氏館跡第13次	大分市顕徳町	大分市教委	佐藤 道文	486.0	031107～040331	大友氏館跡跡、土坑跡	大友氏関連遺跡	確認調査
47	下郡遺跡第143次	大分市下郡中央	大分市教委	松竹 智之	176.0	040309～040423	中世の溝跡、土坑跡	民間開発	本調査
48	横尾遺跡第52-3次	大分市大字横尾	大分市教委	塩地調一他	125.0	030516～040331	縄文時代 水場の遺構	確認調査	確認調査
49	横尾遺跡第59次	大分市大字横尾	大分市教委	塩地 調一	420.0	031030～031126	近代 道路状遺構	区画整理事業	確認調査
50	横尾遺跡第90次	大分市大字横尾	大分市教委	塩地調一他	1,000.0	031201～040202	古代の溝跡、掘立柱建物跡	古民宅建築	本調査
51	横尾遺跡第91次	大分市大字横尾	大分市教委	塩地調一他	1,069.0	040202～040331	中世の掘立柱建物跡	確認調査	確認調査
52	鶴岡町遊藝館川地区	大分市東鶴崎	大分市教委	河野史郎他	392.0	030624～031031	近世 舟入	市役所支所建設	本調査
53	鶴岡町遊藝館三軒地区	大分市東鶴崎	大分市教委	河野史郎他	200.0	040201～040326	近世舟入、築治工房	近世開発	確認調査
54	宮原川遊藝館第1次	大分市上野町	大分市教委	後藤典幸他	2,780.0	030728～040331	中世の溝跡、土坑跡	校舎建設	本調査
55	下志村遺跡	大分市角子原	大分市教委	後藤典幸他	3,450.0	021107～030530	中世の溝跡、土坑跡	学校建設	本調査
56	城原遺跡第6次	大分市大字里	大分市教委	池邊千太郎他	262.4	030514～031104	柱穴、道路状遺構、土坑	道路建設	本調査

番号	道 路 名	所 在 地	調査主体	調査担当者	調査面積	調査期間	調査内容	調査原因	取り扱い
57	城東・東道線第7次	大分市大字里	大分市教委	池邊千太郎他	654.1	030728～031110	1級路付の遊歩道跡跡	確認調査	確認調査
58	玉取地倉庫跡第7次	大分市大字玉沢	大分市教委	永松正太郎他	3,450.0	030516～040326	中世・弥生の水田跡地	市役所直設	確認調査
59	玉取地倉庫跡第5次	大分市大字里	大分市教委	河野史郎他	1,000.0	031224～040325	中世・近世の水田跡地	病院建設	本調査
60	大道遊歩道第5次	大分市東大道	大分市教委	高島 豊 他	3,413.0	030507～040115	鉄道跡・汽機軌跡地	区画整理事業	本調査
61	南池遊歩道第5-7次	大分市龍地町	大分市教委	高島 豊 他	943.0	030330～040122	古代の土坑	道路建設	本調査
62	賀東西遊歩道第2次	大分市大字賀東	大分市教委	萩野 二 他	437.0	030516～031010	古時代・中世の水田跡	区画整理事業	本調査
63		臼杵市藤原下平原地	臼杵市教委	三嶋 有子	1,012.0	030825～030926	遺構有無確認の調査	県空堀場整備	試掘確認調査
64		臼杵市藤原中中原	臼杵市教委	三嶋 有子	100.0	031104～030122	遺構有無確認の調査	県空堀場整備	試掘確認調査
65		臼杵市本坊	臼杵市教委	三嶋 有子	780.0	030930～031031	遺構有無確認の調査	県空堀場整備	試掘確認調査
66	臼杵城下町遊歩道	臼杵市宇治町	臼杵市教委	三嶋 有子	150.0	030522～030718	近世武家屋敷跡	店舗移転	試掘確認調査
67	臼杵城下町遊歩道	臼杵市新町	臼杵市教委	三嶋 有子	160.0	040220～040317	近世町屋跡	店舗移転	試掘確認調査
68	臼杵城跡及び臼杵城下町遊歩道	臼杵市祇園州	臼杵市教委	三嶋 有子	614.0	030905～040331	近世～近代 堀跡	道路拡幅	本調査
69	下市北遊歩道	挾間町北方	挾間町教委	山田 尚志	6,477.0	030905	遺物遺構なし	店舗建設	試掘調査
70	臼杵前町遊歩道	佐伯市大字上岡	佐伯市教委	吉武 敦子	300.0	030625～030626	縄文時代前期の包含層	墓地造成	試掘確認調査
71	楊半礼城跡	佐伯市大字上岡	佐伯市教委	吉武 敦子	6,058.19	030804～030806	古墳・中世 包含層	集合住宅建設	本調査
72	御半礼城跡	佐伯市大字上岡	佐伯市教委	吉武 敦子	100.0	031125～040109	古墳・中世 包含層	集合住宅建設	試掘確認調査
73		佐伯市大字長谷	佐伯市教委	吉武 敦子	1,600.0	040203	遺跡なし	学校建設	試掘調査
74	神ノ原遊歩道	直川村大字直見	直川村教委	竹中 伸吾	1,800.0	040304	縄文時代の、石の土坑	園地整備	試掘調査
75	史跡岡城跡	竹田市大字竹田	竹田市教委	佐伯 治	950.0	030701～040331	紅土層・土層跡	史跡整備	本調査
76	岡城下町遊歩道北原跡	竹田市大字竹田町	竹田市教委	真田 博幸	400.0	030703～030831	近世建物跡(商家跡)	民間開発	本調査
77	岡城下町遊歩道南方面屋敷跡	竹田市大字竹田	竹田市教委	真田 博幸	695.0	030508～040315	近世建物跡(武家屋敷跡)	道路整備	本調査
79	市用地区	竹田市大字市用	竹田市教委	真田 博幸	60,000.0	031224～040213	新・古時代の遺跡等	開地整備	試掘調査
80	北原地区	竹田市大字中角	竹田市教委	真田 博幸	20,000.0	031104～040302	遺跡なし	開地整備	試掘調査
81	挾間地区	竹田市大字挾間	竹田市教委	真田 博幸	3,500.0	030725～040114	遺跡なし	農道整備	試掘調査
82	岡城下町遊歩道七里跡	竹田市大字会々	竹田市教委	佐伯 治	200.0	040107～040109	近世建物跡	赤瓦管シロ建設	試掘調査
83	木ノ元山遊歩道	三重町大字百枝	三重町教委	諸岡 都	48.0	031001～031017	遺構なし	帯電線基塔建設	試掘調査
84		大野町大字酒井寺	大野町教委	後藤 幹彦	50.0	030422	遺構なし	道路建設	試掘調査
85	高浜遊歩道	千歳村大字瓦葺	千歳村教委	豊田 肇士	5,500.0	030401～040331	弥生時代の竪穴・ピタ	道路建設	本調査
86	史跡成宮園跡11次	日田市南豆田	日田市教委	土居 和幸	1,067.0	030702～031125	近世の墓跡	範囲内容確認	確認調査
87	穴蔵古墳跡2次	日田市内野	日田市教委	土居 和幸	50.0	031105～031127	古墳の周溝	範囲内容確認	確認調査
88	水山寺殿所跡2次	日田市丸山	日田市教委	渡邊 隆行	200.0	031206～040329	近世の官衙跡	範囲内容確認	確認調査
89	高野遊歩道	日田市夜明	日田市教委	若杉 竜太	9,200.0	030428～031020	弥生・中世の集落	園地整備	本調査
90	祝原遊歩道	日田市夜明	日田市教委	行時 圭子	4,000.0	030509～030804	中世の土坑、中世の集落	園地整備	本調査
91	倉屋敷遊歩道	日田市夜明	日田市教委	渡邊 隆行	7,100.0	030519～031019	縄文の土坑、中世の集落	園地整備	本調査
92	町ノ坪遊歩道	日田市求来里	日田市教委	土居 和幸	6,355.0	031110～040326	弥生～近世の集落	園地整備	本調査
93	求来里平島遊歩道	日田市求来里	日田市教委	行時 圭子	1,100.0	040107～040331	古墳時代の住居	市道建設	本調査
94	日田東山西区畑地区	日田市田島	日田市教委	土居 和幸	510.0	030612～030626	古墳時代の集落、水田跡	宅地造成	本調査
95	上野第2遊歩道	日田市上野町	日田市教委	行時 圭子	1,500.0	030818～031017	弥生時代の墓跡	畑地造成	本調査
96	峰崎遊歩道	日田市西有田	日田市教委	土居 和幸	15.0	030513	弥生時代の溝	宅地造成	確認調査と土研
97	足ヶ道遊歩道隣接地	日田市花月	日田市教委	行時 圭子	10.0	030520	遺跡なし	プール建設	確認調査
98	大波羅遊歩道	日田市上城内町	日田市教委	土居 和幸	28.0	030528	遺構なし、弥生土器	市道建設	確認調査
99	片山遊歩道	日田市友田	日田市教委	土居 和幸	12.0	030616	遺跡なし	市道建設	確認調査
100	大波羅遊歩道	日田市田島	日田市教委	土居 和幸	7.0	030714	遺跡なし	市道建設	確認調査
101	横枕遊歩道	日田市東有田	日田市教委	土居 和幸	7.0	030811	遺跡なし	無線基地局建設	確認調査
102	葛原遊歩道	日田市西有田	日田市教委	土居 和幸	20.0	031007～031009	遺跡なし、土層質土器	無線基地局建設	確認調査
103	日田駅前上ノ馬場地区	日田市城町	日田市教委	土居 和幸	12.0	031022	遺跡なし	駐車場用地造成	確認調査
104	岩下遊歩道	日田市高瀬	日田市教委	土居 和幸	30.0	030926	遺跡なし	空地施設建設	確認調査
105	牧原遊歩道	日田市日高	日田市教委	土居 和幸	14.0	030930～031001	遺構なし、陶磁器	鉄塔建設	確認調査
106	辻遊歩道	日田市堂尾	日田市教委	渡邊 隆行	119.0	031021～031024	遺跡なし	農業基盤整備	確認調査
107	日田東上手地区	日田市三和	日田市教委	土居 和幸	40.0	031024	近世以降の溝、土層	宅地造成	確認調査
108	薬師岡遊歩道隣接地	日田市小野	日田市教委	渡邊 隆行	432.0	031027～031104	遺構なし、陶磁器・土器	農業基盤整備	確認調査
109	日田東里豆田地区	日田市豆田町	日田市教委	若杉 竜太	20.0	031112	近世の土坑、陶磁器	福祉施設建設	確認調査
110	日田東里豆田地区	日田市豆田町	日田市教委	渡邊 隆行	12.0	031122	近世の土坑、陶磁器・土器	店舗建設	確認調査
111	日田東里土手地区	日田市三和	日田市教委	若杉 竜太	50.0	031124	近世以降の溝、土坑	宅地造成	確認調査
112	日田東里土層地区	日田市三本松	日田市教委	行時 圭子	110.0	040119～040128	古墳時代の土坑・土層	文化施設建設	確認調査
113	大波羅遊歩道	日田市田島	日田市教委	若杉 竜太	35.0	040127	弥生・古代・中世の溝	マンション建設	確認調査
114	伏崎遊歩道	日田市友田	日田市教委	若杉 竜太	15.0	040213	遺跡なし	無線基地局建設	確認調査
115	日田東里成園地区	日田市南豆田	日田市教委	土居 和幸	23.0	040217～040220	近世の溝	溝溝整備	確認調査
116	日田東里丸山地区	日田市丸山	日田市教委	若杉 竜太	64.0	040312～040315	近世以降の水田跡	共同住宅建設	確認調査
117	池ノ原遊歩道	玖珠町大字帆足	玖珠町教委	佐藤 裕二	300.0	030529	遺構なし	車庫整備工場建設	確認調査

番号	遺跡名	所在地	調査主体	調査担当者	調査面積	調査期間	調査内容	調査原因	取り扱い
118	碓ノ元遺跡	玖珠町大字大隈	玖珠町教委	野口 典良	660.0	030805—030822	古墳時代前期の石室跡	老人福祉施設建設	本調査
119	八幡中学校遺跡	玖珠町大字太田	玖珠町教委	野口 典良	656.0	031110—040213	古墳時代の石室四基	河川分流工事	本調査
120	小黒山古墳(Ⅰ期)	杵築市三塚	別府大学	後藤 宗俊	7,800.0	030516—030616	墳丘測量	学術調査	測量調査
121	小黒山古墳(Ⅱ期)	杵築市三塚	別府大学	後藤 宗俊	29,200.0	040207—040221	墳丘周辺測量	学術調査	測量調査
122	四日市横穴墓	宇佐市四日市	別府大学	下村 智	150.0	040223—040227	立面分布測量	学術調査	測量調査
123		豊後高田市長原	大分県教委	栗田 勝弘	1,000.0		遺跡なし	県道福岡小野原線	試掘調査
124		香々地町夷	大分県教委	松本 康弘	2,000.0	040209	遺跡なし	県道夷野末線	試掘調査
125		武蔵町古市	大分県教委	甲斐 寿義	4,000.0	030801	遺跡なし	篠山河川改修	試掘調査
126		国見町野田	大分県教委	甲斐 寿義	450.0	031118	遺跡なし	県道山香見線	試掘調査
127		山香町山浦	大分県教委	甲斐 寿義	4,200.0	030507	遺跡なし	徳富大木野尾山線	試掘調査
128	行橋輔下町遺跡	杵築市大字杵築	大分県教委	栗田 勝弘	500.0	031208—040308	近世 城下町跡	街道拡充工事	本調査
129		豊後高田市長原	大分県教委	栗田 勝弘			一石五輪塔塔	県道福岡小野原線	石造物の調査
130		別府市南立石	大分県教委	松本 康弘	3,000.0	030702	遺跡なし	県道土直見鳥居線	試掘調査
131	丹生川原ノ市遺跡	大分市川添	大分県教委	高橋 信武	13,756.0		遺跡なし	県道ノ市川添線	試掘調査
132	宮先井ノ口遺跡	大分市賀東	大分県教委	高橋 信武	11,000.0		一部本調査	県道小沢原大分線	試掘調査
133	賀来西遺跡	大分市賀来	大分県教委	高橋信武他	400.0	030512—030702	弥生時代住居跡他	県道小沢原大分線	本調査
134	宮窪井ノ口遺跡	大分市賀来	大分県教委	栗田 勝弘	550.0	030805—031003	弥生—古墳時代前期跡	県道小沢原大分線	本調査
136	丹生川原ノ市遺跡	大分市上久所	大分県教委	高橋 信武	2,524.0		遺跡なし	県道ノ市川添線	試掘調査
137	比 津 遺跡	大分市吉野原	大分県教委	甲斐 寿義	29,414.0	030528	遺跡なし	県道吉野原大分線	試掘調査
138	白杵城下町遺跡	臼杵市大字白杵	大分県教委	白杵市再委託	800.0		近世 城下町跡	街道拡張調査線	本調査
139	岡城下町遺跡	竹田市大字竹田	大分県教委	甲斐 寿義	300.0	030528—030603 030821—030828	近世築地等の基礎石	県道竹田玉来線	試掘調査
140	岡城下町遺跡	竹田市大字竹田	大分県教委	竹田市再委託	300.0		近世 城下町跡	県道竹田玉来線	本調査
141	金田遺跡	日田市求楽原	大分県教委	松本 康弘	2,500.0	031110—040310	古墳—古代 集落跡	赤米川開削工事	本調査
142	坂子隈城跡	中津市相原	大分県教委	甲斐 寿義	100.0	030407—030421	古墳時代の横穴墓	河川治水安全	本調査
143	坂子隈横穴墓群	中津市相原	大分県教委	甲斐 寿義 松本 康弘	175.0	030617	要本調査	国道21号交通安全	試掘調査
144	坂子隈横穴墓群	中津市相原	大分県教委	松本 康弘	175.0	030728—030828	中世城跡の礎等	国道21号交通安全	本調査
145		中津市田尻	大分県教委	甲斐 寿義	2,000.0	031016	遺跡なし	県道中津高田線	試掘調査
146		安心院町下毛	大分県教委	甲斐 寿義	2,000.0	030818	遺跡なし	国道5 0 0号	試掘調査
147	榊半礼城跡	佐伯市門前	大分県教委	綿貫 俊一	15,700.0	030611—030613	一部本調査	県道佐伯津久見線	試掘調査
148	榊半礼城跡	佐伯市門前	大分県教委	綿貫 俊一	570.0	030818—030824	中世 遺物跡	県道佐伯津久見線	本調査
149		三重町赤坂・内田	大分県教委	綿貫 俊一	7,050.0	030712—030721	遺跡なし	県道三重新院線	試掘調査
150		中津市定留～大丸	大分県教委	田中 裕介	3,800.0	031202—031203	遺跡なし	県道中津港線	試掘調査
151	語田南遺跡	中津市定留～大丸	大分県教委	田中 裕介	3,800.0	030804—030806	本調査	県道中津港線	試掘調査
152	語田南遺跡	中津市定留～大丸	大分県教委	田中 裕介	3,800.0	030506—031010	中世 集落跡	県道中津港線	本調査
153		中津市大丸～草場	大分県教委	栗原 眞	7,000.0		遺跡なし	国道2 1 2号	試掘調査
154		中津市伊藤田～大丸	大分県教委	小柳 和宏		030909—030924	遺跡発見 確認調査	国道2 1 2号	試掘調査
155		中津市伊藤田～大丸	大分県教委	田中 裕介		031104—031117	遺跡なし	国道2 1 2号	試掘調査
156	上畑成遺跡	中津市大丸～草場	大分県教委	田中 裕介	8,500.0	030428—031204	縄文・古代・中世の遺構	国道2 1 2号	本調査
157	馬下遺跡	中津市伊藤田～大丸	大分県教委	田中 裕介	600.0	040107—040318	中世・水田跡	国道2 1 2号	本調査
158	古庄屋遺跡	本耶馬溪町高合～西首	大分県教委	栗原 眞他	4,400.0	030917—040323	遺跡なし	国道2 1 2号	試掘調査
159	古庄屋遺跡	本耶馬溪町高合	大分県教委	栗原 眞他	7,300.0	030917—040323	中世 館跡	国道2 1 2号	本調査
160		本耶馬溪町高合	大分県教委	栗原 眞	2,758.0	040219	遺跡なし	国道2 1 2号	試掘調査
161	中世大友府内町31米	大分市六坊南町	大分県教委	高橋信武他	1,000.0	030527—030930	造幣所(遺物・遺構)	県道中津大友線	本調査
162	中世大友府内町跡	大分市六坊南町	大分県教委	高橋 信武	6,500.0	030818	本調査	県道中津大友線	試掘調査
163	中世大友府内町36米	大分市六坊南町	大分県教委	高橋信武他	750.0	031014—040319	中世 遺構跡・町屋跡	県道中津大友線	本調査
164	善富八幡遺跡	大分市六坊北町	大分県教委	綿貫俊一他	2,300.0	031001—040221		県道中津大友線	本調査
165	北友田横穴墓群	日田市友田	大分県教委	甲斐 寿義	200.0	031128—040220	古墳時代横穴墓1基	片山地区急傾斜	本調査
166	中世大友府内町23米	大分市跡町	大分県教委	吉田 寛	480.0	030512—031226	中世 遺跡状遺構他	国道10号福岡線	本調査
167	中世大友府内町34米	大分市元町	大分県教委	友岡 康彦	700.0	◇	中世 遺跡状遺構他	国道10号福岡線	本調査
168	中世大友府内町29米	大分市元町	大分県教委	徳藤 晃一	1,000.0	◇	中世 万寿寺遺跡他	国道10号福岡線	本調査
169	中世大友府内町30米	大分市元町	大分県教委	坂本嘉弘他	700.0	◇	中世 万寿寺遺跡他	国道10号福岡線	本調査
170	中世大友府内町35米	大分市元町	大分県教委	矢部謙徳他	500.0	◇	中世 万寿寺遺跡他	国道10号福岡線	本調査
171	高涼(出口)遺跡	千歳村高涼	大分県教委	原田 昭一	9,000.0	030724—040224	弥生時代集落跡他	県道79号自給線	本調査
172	高涼(石玉園)遺跡	千歳村高涼	大分県教委	原田 昭一	9,000.0	030626—030815	弥生—古墳 集落跡他	県道79号自給線	本調査
173	高涼(土庫園)遺跡	千歳村高涼	大分県教委	原田昭一他	9,000.0	030401—030818	弥生・中世 集落跡	県道79号自給線	本調査
174	廣(六蔵前地区)遺跡	千歳村高涼	大分県教委	原田 昭一	36,000.0		縄文後期住居跡他	国道79号自給線	本調査
175	大野町穴井	大野町穴井	大分県教委	原田 昭一	1,000.0	030811—031006	縄文・弥生時代遺物	県道79号自給線	本調査
176	穴井南遺跡	大野町穴井	大分県教委	原田 昭一	400.0	040226—040311	弥生時代住居跡1棟	県道79号自給線	本調査
178	門前(佐伯)遺跡	佐伯市門前	大分県教委	橋島 隆二	10,000.0	030513—040312	縄文時代早期集落遺物	九州自動車道	本調査
179	西日市遺跡群	玖珠町	大分県教委	小柳 和宏	800.0	031215—040316	石室・古墳跡・集落跡	玖珠工業団地造成	本調査

2 平成15年度各遺跡の調査概要

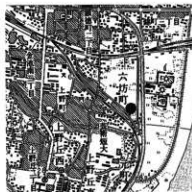
No	163	遺跡名	中世大友城下町跡第36次	所在地	大分市六坊北町
調査原因		調査機関	県道庄の原佐野線緊急道路改良工事	調査期間	2003.10.15～2004.3.15
調査機関		調査担当者	大分県教育委員会		高橋信武・生野令子
調査面積	850㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 中世大友城下町跡のうち、御蔵場想定地の南側に該当する。府内古図では御蔵場の南側には道路があって、両側は町屋（鋸町・魚ノ店）があることになっている。調査区は幅10m、長さ85mで、県道南部に金池放水路を先行建設する場所である。

遺構 検出した遺構の時間幅は14世紀から16世紀に亘る。16世紀代の遺構は道路跡・井戸・掘立柱建物跡・ゴミ穴等である。道路跡は幅5m～6mで最大厚さ20cmに砂を敷き詰めている。調査区中央部に南東から北西に走り、古図の道路跡に比定できる。周辺に広がる遺構は町屋に関わるものであろう。井戸は複数あるが、板状に加工した凝灰岩を六角形に組み合わせた精巧な例が2基ある。14世紀代の遺構は道路跡・溝状遺構・畑あるいは水田に関する細い溝状遺構等がある。道路跡は両側に側溝をもつもので、16世紀の道路跡に一部重なり、平行して走る。調査区の大部分は焼土に覆われており、1586年の薩摩の豊後侵攻時の府内大火災によるものらしい。

遺物 町屋跡であることを示すかのように、瓦の出土量は少ない。板葺き屋根の押さえとしての礫は多量に出土した。

しかし、当時としても珍しかったと思われる華南三彩の鳥形水注・ラクダ形水滴や底部六角形の容器、東南アジア製の合子、タイ製四耳壺等が見られ、一般庶民が住んでいたとも思えない。他に、土師器質皿（在地系・京都系）・中国製青花（染付け）・備前焼きの播り鉢と壺・瓦質土器・フイゴの羽口、埴塙等の容器類、ガラス小玉（キリスト教徒の首飾り）等がある。



遺跡の位置(1/25,000「大分」)



溝状遺構遠景



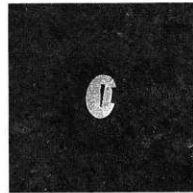
漆器椀(白鳥が小枝を銜えた図柄-14世紀)



華南三彩の鳥形水注



ラクダ形水滴



脇差しの鐔

No	144	遺跡名	坂手隈城跡		所在地	中津市大字相原字坂手ノ前
調査原因	国道212号交通安全工事				調査期間	2003.7.28～2003.8.28
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	松本康弘
調査面積	200㎡	時期	中世、近世		遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 遺跡は中津市南部に広がる標高30m程の下毛原丘陵の西端部に立地し、その西眼下には山国川が流れている。

遺構 今回の本調査箇所は、藍原氏が築いたとされる坂手隈城跡の外堀と土塁にあたる。

調査の結果、土塁は最大で幅約8m、高さ約2mであったことが確認された。また、堀は最初深さ3mの空堀であったが、若干埋まった後、堀の底を利用して道としており、その後は水田として活用されていたことが確認された。

遺物 溝から若干、中世土師器片・瓦質土器片が出土したにとどまり、溝の各段階の時期を限定するには至らなかった。



遺跡の位置(1/25,000「土佐井」)

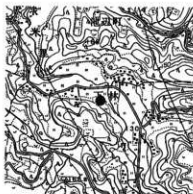
No	141	遺跡名	金田遺跡		所在地	日田市大字求来里字金田
調査原因	国道212号交通安全工事				調査期間	2003.11.10～2004.3.10
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	松本康弘
調査面積	1,500㎡	時期	古墳、古代		遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 遺跡は日田市大字求来里字金田にあり、東西に流れる求来里川の南の丘陵上に立地し、川を挟んだ北側には水田が広がっている。

遺構 弥生時代中期、後期、古墳時代(5世紀)および古代(8世紀)の竪穴住居跡が30基確認された。

古墳時代の住居跡は竈を敷設しており、その残存状態も良好であった。

遺物 住居跡からは弥生土器、土師器が多量に出土しているが、須恵器はほとんど検出できなかった。



遺跡の位置(1/25,000「日田」)

No	133	遺跡名	賀来西遺跡	所在地	大分市大字賀来西
調査原因	県道小扶間大分線道路改良工事		調査期間	2003. 5. 12～2003. 6. 11	
調査機関	大分県教育委員会		調査担当者	栗田勝弘・山本哲也	
調査面積	384㎡	時期	縄文・弥生	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 大分市街の南西、賀来川左岸の沖積地、標高16～17mの現水田面に位置している。すぐ北側に位置する丘陵の上やその縁辺部の斜面には古墳群が古くより周知されていた。

例えば、遺跡の北西には国指定史跡の千代丸古墳、岩御堂横穴墓群が位置し、北側の丘陵上には餅田古墳群・横穴墓群、北東には井出ノ上古墳・横穴墓群、上片面横穴墓群、千人塚古墳、県指定史跡の丑殿古墳、蓬萊山古墳と続いている。



遺跡の位置(1/25,000「大分」)

遺構 弥生中期の竪穴遺構が1基検出された。竪穴遺構は火災を受けており、竪穴の平面プランは判然としないが、焼土の分布、炉跡と推量される土坑の位置、垂木と考えられる炭化物の方向、土器の分布から推察して、直径9～10mの円形の竪穴住居跡と推察できた。

一方、縄文時代の土器は3～4個所に分布域の中心があり、竪穴住居跡の残映と推量された。

遺物 出土遺物としては、縄文時代後期初頭と後期後半の土器と弥生中期の土器が出土している。

縄文後期初頭の土器は磨消縄文土器と、これに伴う区画線内列点文や凹線文土器であり、この時期の土器群を比較検討するうえで注目できそうである。



1号竪穴遺構検出状況(東から)

まとめ 遺跡からは弥生中期の焼失竪穴住居跡1基と縄文後期の土器が出土している。縄文土器は後期初頭の稀有なものであり、その土器共伴関係は注目できる。また、縄文時代の土器は3～4個所に分布域が異なり、竪穴住居跡の残映と推量された。

No	128	遺跡名	杵築城下町遺跡		所在地	杵築市大字杵築
調査原因	都市計画道路宗近魚町線道路改良工事				調査期間	2003.12.8 ~ 2004.3.8
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	栗田勝弘・山本哲也
調査面積	420㎡	時期	近世		遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 杵築市街の中心部、谷町商店街に位置している。杵築は中世の木付氏支配以後、杉原(1596年入部)、早川(1597年入部)、細川(1600年入部)、小笠原(1632年入部)、能見松平(1645年入部)と頻繁に領主が変遷し、松平氏は幕末まで続いている調査対象区の谷町は、武家屋敷が並ぶ北台と南台の谷間に位置し、隣接した仲町、魚町と共に町人の居住区であった。

谷町の調査区は、平成4年度の調査を踏襲し、17~19区と呼称する。調査は文化12年頃に描かれたという町屋の絵図の区画を参考にして実施した。



遺跡の位置(1/25,000「杵築」)

遺構 調査の結果、当時の町屋区画を踏襲して、現道路や現屋敷地が区画されている様相が窺えた。個々の屋敷は間口が狭く、南北に長い区画であり、文化年間の絵図と同じである。遺構としては、各屋敷を区画する石列や側溝、柱穴、土坑などである。

調査は、地表面を約50cm程重機で取り除き、後は手掘りで地表下約2m掘り下げた。その結果、火災にあった焼土面が5~6面も検出でき、火災の後に屋敷を嵩上げしている様相が普遍的に観察できた。



19区石組遺構検出状況(北から)

遺物 焼土面で遺物を層位的に発掘した。焼土3面は出土遺物が僅少であるが、17世紀後半の松平段階の所産と推察できた。

焼土4面は、肥前系青磁碗や伊万里碗などから17世紀の中頃の松平氏段階と推察できた。

焼土5面は胎土目段階の唐津系陶器皿、初期の伊万里皿・碗、在地の土師質土器杯・小皿が出土している。これらから、この面は17世紀前半の細川・小笠原氏段階に比定できそうである。

まとめ 低い谷町と高い南台との境には、現在でも谷川が流れている。谷町はこの谷川の氾濫原に開発されたものと考えてよい。現在、地表下約1.5mで水がでる。火災のために屋敷を約30cmも嵩上げし、結果的に約2mも人為的に堆積させた様相が顕著に把握できる。最下層の砂礫層まで発掘したが出土遺物は近世初頭期までと推察できた。つまり、近世初頭までは谷町は未開発の氾濫原であったと推察できる。

No	134	遺跡名	宮苑井ノ口遺跡	所在地	大分市大字宮苑字井ノ口
調査原因		県道小扶間大分線道路改良工事		調査期間	2003. 8. 5～2003.10. 3
調査機関		大分県教育委員会		調査担当者	栗田勝弘・山本哲也
調査面積	550m ²	時期	弥生・古墳	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 大分市街の南西、賀来川左岸の沖積地、標高16～17mの現水田面に位置している。すぐ北側に位置する丘陵の上やその縁辺部の斜面には古墳群が古くより周知されていた。

例えば、遺跡の北西には国指定史跡の千代丸古墳、岩御堂横穴墓群が位置し、北側の丘陵上には餅田古墳群・横穴墓群、北東には井出ノ上古墳・横穴墓群、上片面横穴墓群、千人塚古墳、県指定史跡の丑殿古墳、蓬萊山古墳と続いている。



遺跡の位置 (1/25,000 「大分」)

遺構 弥生後期後半～古墳前期初頭の遺構が検出された。主な遺構としては、堅穴遺構8基、土坑6基、溝状遺構3条、小児用カメ棺墓13基である。堅穴遺構は5基が住居跡であり、残り3基中の1基は祭祀用に用いた土器を廃棄した、廃棄用の堅穴と推察できた。

一方、堅穴住居のすぐ側に検出された小児用カメ棺は乳幼児の集団墓と推察できる。カメ棺の長軸をそれぞれ追っていくと、カメ棺墓の中心部には赤色顔料が遺存する小空間があり、埋葬に伴う何らかの葬送儀礼の場所と見なされた。



小児用カメ棺墓検出状況 (東から)

遺物 出土遺物としては、縄文土器～中世土器まで出土しているが、その主体は、弥生中期、弥生後期後半～古墳前期初頭、古墳後期の土器が出土している。中でも、弥生後期後半～古墳前期初頭の13基のカメ棺は二重口縁の壺型土器と甕、鉢との組み合わせであり、当該期のセット関係をみる上で注目できる。

まとめ 弥生後期後半～古墳前期初頭の13基のカメ棺は集落の北端付近に営まれた乳幼児を対象とした小児用カメ棺墓群であった。堅穴住居跡のすぐ側に埋葬されたカメ棺は中心部の小空間から放射状に円形に配置されており、カメ棺の規則的な配置を窺わせる。小空間には赤色顔料を散布しており、カメ棺の埋葬に伴う何らかの葬送儀礼を行う空間と推察された。

No	165	遺跡名	北友田横穴墓群		所在地	日田市大字友田
調査原因	急傾斜地崩壊対策工事			調査期間	2003.12.18~2004.2.20	
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	甲斐寿義・安井由加梨	
調査面積	約200m ²	時期	古墳時代後期		遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 北友田横穴墓群は日田市大字友田に所在する。花月川右岸、標高は約80mの丘陵斜面に位置する横穴墓群である。すでに開口している横穴墓が多数存在しており、片山地区急傾斜地崩壊対策工事に伴い平成15年度に立会い（確認）調査を実施した結果、調査区東側で開口した7基の横穴墓を確認したため、本調査を実施することになった。

遺構 調査区東側で開口した7基、調査区西端で未開口1基を含む4基、調査区中央で1基の計12基の横穴墓の調査を実施した。

遺物 調査区東側調査区では、前庭部から墓前祭祀に伴う須恵器等の遺物が出土し、また開口した横穴墓からも玄室内から12世紀～13世紀頃の白磁や土師器等の遺物が出土した。西側調査区では、未開口の横穴墓の玄室内からは、複数体の人骨とそれに伴う古墳時代～古代にかけての副葬品が、開口した横穴墓からは東側と同様に中世の青磁等が出土した。

まとめ これらの横穴墓は、いずれも6世紀前半～7世紀のもので5基前後で前庭部を共有する横穴墓群を形成しており、また、調査区全体を通して開口した横穴からは中世の遺物が出土していることから、これらの横穴墓群は中世墓として転用された可能性が高い。また、未開口横穴墓からは古墳時代～古代にかけて遺物や人骨とともに出土するなど、この地域の古墳時代～中世にかけての埋葬形態を知る上で貴重な資料を得ることとなった。



遺跡の位置 (1/25,000 「日田」)



第4支群遠景

No	148	遺跡名	梅牟礼城跡	所在地	大分県佐伯市大字上岡字角木
調査原因	県道佐伯津久見線道路改良			調査期間	2003.8.18~2003.9.24
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	綿貫俊一・生野令子
調査面積	1,200㎡	時期	室町	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

調査の概要 梅牟礼城跡の東麓の裾部に立地する角木地点は山の斜面を削り出すと共に、谷側へ廃土を埋めたることで平場を形成している。この平場には東面する掘り立て柱建物が数棟建てられていた。周囲の遺構や包含層から「箱型」を呈するものや、器壁が薄く大きく開く土師質土器、青磁、磁器、天目などが見つかっている。遺物の年代は15世紀後半から16世紀代のものと、近世に位置づけられるものがある。特に前者の年代は梅牟礼城の城年代(大永年間)と重なる部分があり、佐伯氏との関係が考慮される部分である。



遺跡の位置(1/25,000「植松」)

No	164	遺跡名	若宮神社遺跡	所在地	大分県大分市上野町
調査原因	県道庄の原佐野線道路改良			調査期間	2002.10.1~2002.1.21
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	小柳和宏・綿貫俊一
調査面積	2,300㎡	時期	弥生	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

調査の概要 発掘調査の結果、縄文時代後期、弥生時代、平安時代の遺物が旧河道内の泥炭層や土坑から発見された。遺物には土器、瓦、鋳(木器)、クヌギのドングリなどが発見された。クヌギのドングリは弥生時代中期後半の貯蔵用土坑から見つかった。土器は弥生時代中期後半の土器が主体を占め、ついで平安時代の土器や近江産の緑釉陶器があった。瓦は、外面に格子目紋、内面に布目が観察される古代瓦であり、南方の丘陵上に立地する金剛宝戒寺に由来するものと考えられる。その他、泥炭層中から流木・木葉も見つかった。



遺跡の位置(1/25,000「大分」)

No	152	遺跡名	諸田南遺跡B地区	所在地	中津市大字諸田1211番
調査原因	県道中津港線道路改築工事			調査期間	2003.5.6～2003.10.10
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	田中裕介・阿比留士朗
調査面積	3,800㎡	時期	鎌倉～室町	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター



遺跡の位置(1/25,000「土佐井」)



全景(北から)

位置 周防灘に向かってのびる低丘陵上に立地する中世の集落遺跡である。

遺跡の内容 13世紀から15世紀に掘削された水田導水路と推定されるV字溝2条を中心に屈曲し途中に水溜を有する脇水路がめぐり、調査区の南半では水路の周囲にL字形の浅い溝が3ヶ所取り付き、その周囲に柱穴、廃棄土坑が集中する。

出土遺物は土師器鍋などの生活用品が中心にして、ごく少量ながら中国製の陶磁器が含まれる。ほかに生産用具として大型の管状土鍬が一定量出土している。

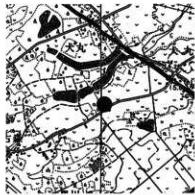
遺構と遺物の内容から、中世に台地上の水田開発をおこなうために掘られた水路と、短期間の居住を繰り返した小集落の遺跡と考えられる。

No	156	遺跡名	上畑成遺跡	所在地	中津市大字犬丸字小畑成
調査原因	国道212号中津道路道路改築事業			調査期間	2003.4.28～2003.12.4
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原眞・田中裕介・吉田朋史
調査面積	約9,500㎡	時期	縄文早期、古代(9世紀)、 中世(15世紀)～近世	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 新たに発見された遺跡である。周防灘に向かって八手状にのびる低丘陵上に立地する。周辺には中世の城館である中尾城があり、その縁辺に当る。

遺跡の概要 遺跡の南半は耕地整理で削平されていたため溝等の深い遺構のみが残っていたが、北半では墓、縄文時代の遺構等が発見された。また中世以後の遺構の中に奈良時代の須恵器がかなり含まれており、この付近に古代の集落が存在したことがうかがわれる。また丘陵の南奥にはいまは埋め立てられているが「から池」と呼ばれる溜池がかつて存在していた。

現状は1960年代の耕地整理で水田化されているが、それ以前はこの付近は畑地であった。しかし調査の結果戦国期あるいは古代にさかのぼる水路遺構が発見され、この地域の丘陵上の水田開発が前進後退を繰り返しながらも古代奈良時代までさかのぼる可能性が強まった。おそらく「から池」の造成と関連すると思われる。



遺跡の位置(1/25,000「土佐井」)

遺 構

- 縄文時代 集石遺構 土坑2基⇒早期、落し穴1
(遺物はないがこの時期か)
- 古 代 S D-06 蛇行しながら調査区を横切る Y 字溝
(中層に9世紀の土師器壺を埋置する)。何度も掘りなおされた水路である。
- 中 世 S D-04 箱型の溝 土層から見て何度も改修された水路である。最下層から16世紀の瓦質火鉢、土師器つきが出土し、戦国時代のものである。
S-16 瓦質火鉢を棺に転用した墓、歯が出土した。戦国時代。
- 中近世 S D-01 最下層に水路としてくっさくれた箱型の溝で中世末。その後近世に溝は幅8~10mに拡幅され、長い溝状の水田として利用されている。

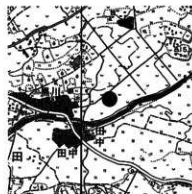


古代の溝

特記事項 水路は継続しておらず、古代と戦国時代の間にヒアタスがある。畑成という地名も一旦水田化の対象地となりながら成功せず、畑地となったという意味で中世に成立した地名と考えられる。

No	157	遺跡名	馬下遺跡	所在地	中津市大字犬丸字馬下
調査原因		国道212号中津道路道路改築事業		調査期間	2004.1.7~2004.3.18
調査機関		大分県教育委員会		調査担当者	田中裕介・生野令子
調査面積	約1,200㎡	時期	鎌倉~近世	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

遺跡の概要 新たに発見された遺跡である。周防灘に向かって流れる犬丸川の沖積地に立地する。周辺には中世の城館である中尾城があるほか、遺跡の南側には中世の勤旨街道、古代の駅路である豊前道の路線に近い。遺跡の南に所在する田中橋付近は上記道路の犬丸川渡河点として古代以来の交通の要地であったと考えられる。



遺跡の位置(1/25,000「宇佐」)

遺 構

遺跡の東西は耕地整理で削平されていたため旧河道およびそれに沿う水田遺構が残されている。水田は上層に江戸時代以降の水田(水路を伴う)、中層に鎌倉時代の小水路を伴う水田面を発見した。小水路は何度も繰り返し掘り返されており、掘り返しのたびにおこなわれた土器(瓦器?、土師器?)の埋置が3ないし5箇所認められる。土器は正位に一個体ずつ置かれ、周辺あるいは上部に円礫を伴っている。掘り返しによって破砕している土器もあるので、くりかえし土器の埋置がおこなわれたものと推定される。また完形で残されている個体があるので埋置のおこなわれた季節は稲の収穫後の秋ではないかと想像される。同時に水田層中には、土器片や食物残片がふくまれているので、東側の微高地上には鎌倉期の居住地が存在していたものと見られる。

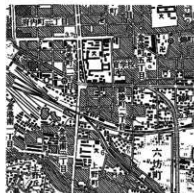


中世水路中の瓦器碗埋納状況

また中世以後の遺構の中に奈良時代の須恵器がかなり含まれており、この付近に古代の集落が存在したことをうかがわせる。

No	166~ 170	遺跡名	中世大友城下町跡	所在地	大分市錦町・元町
調査原因	一般国道10号古国府拡幅			調査期間	2003.4～2004.3
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	坂本嘉弘・友岡信彦・吉田寛 矢部勝徳・後藤晃一 恒賀健太郎
調査面積	6,000㎡	時期	14世紀～16世紀	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 本年度は28次～30次、34次、35次の計5箇所において発掘調査を実施した。28次調査区は、昨年度調査の18次調査区と22次調査区に挟まれた地点に位置し、大友館東側正面の桜町に相当すると考えられる。29次及び35次調査区は万寿寺西南隅に相当し、特に35次調査区は万寿寺の南限が検出される可能性のある場所に位置する。34次調査区は万寿寺と御蔵場に挟まれた間に位置し、南北に延びる大路及び、昨年度検出された万寿寺の堀の延長部が確認される可能性のある地点である。30次調査区は万寿寺の更に南に位置する、後小路町と呼称される町屋に相当する部分である。



遺跡の位置(1/25,000「大分」)

遺構 各調査区ごとに主要遺構をみていくことにする。

[28次調査区]

前年度までに確認されている南北に延びる第二の街路の延長部が検出された。特に構築初期の道路西端部においては粘質土と砂質土を交互に折り重ねて整地を行い、路面を形成していることが確認された。また、路面の下位には街路に完全にバックされた状態で南北方向に延びる溝も確認されている。道路西端部は、改修に伴うかさ上げの繰り返しと町屋側からの進出により、徐々に道幅を狭め、16世紀末の最終段階では道路西端部は東側に4m程移動していると考えられる。

調査区中央では多数の柱穴群が検出された。これらの中には東西方向に並ぶ櫛列状の遺構が5～6単位存在し、当該遺構が4～5mごとにほぼ規則正しく並列している状況が確認できる。これよりこの櫛列状の遺構は町屋内の屋敷境の区画であり、当該区画が1単位ないし2単位で一つの屋敷地となる可能性が考えられる。またこの柱穴群とは時期を異にして、礎石も検出されている。一部近世以降の削平により焼失しているが、検出状況や出土遺物より、柱穴群が16世紀後半を主体とし、礎石建物は16世紀後半から末を主体とすると考えられる。

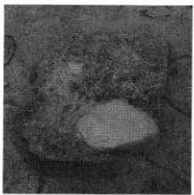
このほか、土坑や集石群を主体とする遺構が検出されており、土坑については、火災処理土坑や廃棄土坑と推定されるものが多い。これより当該地点が町屋の裏手としての空間構成を有していたことが想定できる。遺構の大半は16世紀後半から末に比定される。

[29次調査区]

本調査区からは溝、土坑、井戸、道路状遺構、土坑墓、掘立柱建物等が検出された。溝は、東西方向に延びるも



全景(28次)



焼土が取り巻いた礎石(28次)

のが4条、南北方向に延びるものが1条確認された。東西南方向の溝は、14世紀から16世紀後半までの間に、それぞれ時期差をもって存在したものと考えられ、いずれも出土遺物にかなりの瓦を含んでいるのが特徴的で、鬼瓦も出土している。この29次調査区は、府内古図に照らし合わせると、万寿寺の南西隅にあたと考えられ、前述の瓦の出土はその傍証となる。また、南北方向に延びる溝からも多くの瓦が出土しているが、特に注目すべきものとして釉裏紅玉壺春の胴部片が出土した。溝の廃絶時期は、他の出土遺物から15世紀段階と考えられ、釉裏紅玉壺春は伝世品であったものと考えられる。

井戸については、3基確認されている。その内1基は井筒が凝灰岩を整然と積み上げて造られており、その凝灰岩の中には一石五輪塔等も含まれていた。出土遺物から16世紀後半段階のものと考えられるが、万寿寺内にも関わらず、こうした五輪塔の使い方を考える点を見ると、16世紀後半でも特に万寿寺が焼き払われその機能を失った1582年以降の所産であることも想定される。

また、道路状遺構については、硬化面は近世以降の削平によって消失しているが、東西南方向に波板状圧痕が認められる。その延長部は西側の34次調査区へ続くと考えられ、その先には堀を埋めた石列が存在している。今後その性格を含め検討を有する課題である。

[30次調査区]

本調査区では、多数の柱穴群と共に井戸、廃棄土坑等が検出されており、29次調査区や30次調査区の万寿寺内とは異なった様相を呈している。府内古図によれば、万寿寺の南側には、「魚ノ店」、「後小路町」等の記述が見られ、それらとの関連が考えられる遺構である。

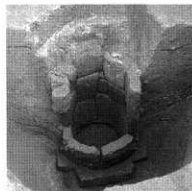
遺構の時期は14世紀～16世紀後半の幅で確認されているが、第二の街路とは明らかに異なった方位をもつ14世紀の溝も検出されており、14世紀の早い段階には異なったプランに基づく町造りが行われていたようである。また、注目される遺構として、調査区の北側には東西南方向に並ぶ石列が確認されている。それらの北側には、砂や砂利が斜め向きに互層になっている状況が観察され、このことより北側には何らかの目的をもった空地もしくは道路等の硬化面が形成されていることが分かる。また、これらの硬化面の下層には、溝のような落ち込みも確認されており、北側に万寿寺があることを勘案すると、万寿寺と町屋を画する何らかの区画であることが想定される。

[34次調査区]

本調査区では、府内古図より想定されていた第二の街路及び万寿寺の西端部が確認された。第二の街路は調査区の西隅を南北に走る方向で確認された。道路面はかなり硬化しており、その硬化層は約1cmに及ぶ。更にその道路の東端からは幅8m前後、深さ約2.2mの堀が確認された。この堀からは16世紀後半代の遺物が中心となって出土しており、その規模等から見ても前年度調査で検



波板状圧痕と溝(29次)



石組の井戸(29次)



全景(30次)



石列(30次)

出された万寿寺北側の堀に接続するものである可能性が高い。また、この堀の南側部分では東西方向に堀をせき止めるように石列が積み上げられており、その形状から土橋か、或いは何らかの区画を呈しているものと考えられる。また、この堀の上面では全面に焼土層が確認された。そしてその焼土層に埋もれた状態で大型の礎石列が検出されており、堀が埋没した後にこの一帯に居住空間が存在したことを示している。したがって一面に広がる焼土は、この居住地が焼亡した結果生じたものであって、出土遺物の時期等から判断して1586年の島津侵攻によるものである可能性が高い。

以上整理すると、第二の街路はその東端部にすぐ万寿寺の堀が取り付くことから、両者は併存した可能性が高く、更にその直上から影三島等が出土していることを考えると堀が埋没した後も機能していた可能性が高い。堀はその出土遺物から見て16世紀第3四半期に掘られており、ほどなく石列が造られる。そして堀が完全に埋没した後に礎石建物が構築され、それらも間もなく1586年の島津侵攻によって焼失したものと考えられる。

なお、調査区東側においては、東に隣接する29次調査区で検出された東西方向の溝の延長部が検出されており、それらはいずれも検出地点より約1mほどで終わっていることが確認されている。さらにその溝の終了地点のすぐ西側では、南北方向に互層状の堆積状況が延びていることが認められ、万寿寺西限の築地塚等の施設が存在した可能性が考えられる。

[35次調査区]

本調査区では、大分市教育委員会による6次調査(平成10年度調査)で万寿寺の南限と推定した14世紀前半の区画溝の西側延長部が検出される可能性があったが、発掘調査の結果、それは確認されなかった。ただ、その延長部には当たらないものの、東西方向に延びる溝が数条検出され、その埋土中にはかなりの14～15世紀代に比定される瓦片が含まれていた。したがって、この調査区一帯は14～15世紀段階においては、やはり万寿寺の中か、或いはそれに関連する施設が存在した可能性が高いといえる。ただ、いずれの溝も規模からしてさほど大きいものではなく、南限を示すも程のものではないと考えられ、万寿寺の南限は本調査区より更に南方に存在したものと考えられる。

なお、調査区の中央北側において井戸が一基礎確認され、中から京都系土師器をはじめとする16世紀段階の遺物が出土している。また、第二の街路とは軸を異にし、前述の30次調査区で検出された14世紀の溝とほぼ同方位を持つ溝が検出されており、その溝内から14世紀初頭段階の吉備系土師器等が出土している。したがって、14世紀初頭万寿寺創建時から16世紀までにおいて、万寿寺の南限も含めて、この調査区一帯は異なった空間が存在した可能性を想定しておかなければならない。



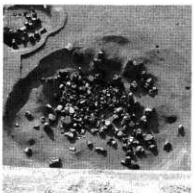
掘完掘状況 (34次)



石列検出状況 (34次)



東西方向の溝 (35次)



廃棄土坑 (35次)

遺物 [28次調査区]

掛仏・油煙墨・分銅（蒔形、太鼓形）・京都系土師器
景德鎮窯青花・備前・メダイ様銅製品

[29次調査区]

瓦（鬼瓦・軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦）・漆器椀
京都系土師器・在地系土師器・備前・瀬戸美濃系陶器
大形土製品・景德鎮窯青花・漳州窯青花・龍泉窯青磁
白磁玉取獅子

[30次調査区]

京都系土師器・在地系土師器・景德鎮窯青花
漳州窯青花・備前・龍泉窯系青磁

[34次調査区]

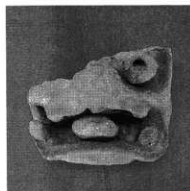
京都系土師器・景德鎮窯青花・黒楽茶碗・彫三島
備前・天目茶碗・赤間硯・分銅

[35次調査区]

瓦（軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦）・備前
龍泉窯青磁碗、香炉・枢府系白磁・景德鎮窯青花
瀬戸美濃系卸皿・京都系土師器・在地系土師器
大内系土師器



掛仏 (28次)



出土鬼瓦 (29次)



青磁人物像燭台 (34次)



彫三島 (34次)

まとめ 本年度の調査により、大友館正面の町屋景観の変遷及び万寿寺西南隅一帯の状況が判明してきた。

まず、大友館正面の町屋景観（主に桜岡）は、一昨年度調査より徐々に明らかにはなっているが、本年度調査によって、具体的な屋敷区画の単位が確認された。さらにその屋敷の面する第二街路が、屋敷の進出によってその幅を縮小してく過程がより具現化されてきた。

次に、万寿寺西南隅一帯については、各調査区において重要な情報を得ることができたが、特に34次調査区の成果により、万寿寺西南隅一帯の変遷がかなり解明されてきた。万寿寺の周囲は、大きな堀で囲まれていたことが前年度調査の成果から推測されていたが、本年度はそれを追認する調査結果が得られた。さらにその堀が埋められた後、そこは礎石建物を中心とする居住空間が存在したことが判明した。文献史料によれば天正10年（1582）、大友義統が柴田礼能にあてた文書で「一、萬寿寺築地之内并西之屋敷両所、令所望候之事 一、一府之内、萬寿寺町屋敷之事、無残所領置候事…」とある。これは万寿寺が焼き払われた後に、万寿寺西隅の敷地を柴田礼能に与えたことを示しているが、万寿寺の堀が埋められ、その機能を失った後に居住空間が広がるという調査事実に対応している。そうした点から考えると、この居住空間は柴田礼能に関係するものである可能性は十分ありえる。さらに柴田礼能がキリシタン武将であることを考えると、この時期万寿寺西隅は万寿寺とは完全に切り離された空間であったことが推測される。今後こうした点を踏まえて、遺構検証を行っていく必要がある。

No	171	遺跡名	高添遺跡群出口地区	所在地	大野郡千歳村大字長峰字出口
調査原因	中九州横断道路建設			調査期間	2003.7.24~2004.2.24
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一・山崎文子
調査面積	5,000m ²	時期	弥生・古墳・中世	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 大野川の支流である茜川流域の千歳盆地北側の高添台地上に位置している。今回の調査区は遺跡のごく一部であり、遺跡は高添台地に広く集落が広がっていたものと考えられる。

現在、高添遺跡では確認出来ているもので200棟近くに及ぶ。当遺跡は、未掘部分も多く、千歳村域最大の集落遺跡とされる六鹿原遺跡をしのぐ大集落とみられる。

遺構 弥生時代終末～古墳時代初頭の隅丸方形竪穴住居跡が7棟検出されている。また、16世紀のものとして1辺50mクラスの方形の溝（幅1.5～2m）に囲まれた10棟以上の掘立柱建物跡群や櫓列、土坑等が検出され、方形館であったことがわかる。この方形にめぐる溝の東西には、それぞれ溝と平行して溝状遺構が検出されたが、西側溝状遺構は道状の堆積状態を示し、道路として機能していたことがわかる。また、溝の埋土状況から方形にめぐる溝の周りに土塁が巡っていたことがわかる。

遺物 隅丸方形竪穴住居跡から弥生時代終末～古墳時代初頭の壺・甕類の破片が出土し、溝・土坑・ピットなど戦国期の遺構からは備前焼甕・播鉢、白磁皿、土師質土器皿などをはじめとした遺物が出土している。

まとめ 高添遺跡では、これまでの調査において弥生時代終末～古墳時代初頭の集落が確認されており、今回の調査において、その広がりが出口地区にまで及ぶことが明らかとなった。

また、16世紀の方形溝に囲まれた屋敷が確認されたことは、大野部での戦国期集落の実態を掴むうえで非常に大きな成果であった。現在、高添遺跡周辺の住宅地には、堀や土塁の痕跡が残されており、戦国期から集落景観が踏襲されていることがわかるが、その集落形成期の屋敷の実態が掴める成果であったことは意義深い。なお、この戦国期の屋敷遺構は現在の字図に反映されていることも興味深い。



遺跡の位置(1/25,000「田中」)



遺跡全景(東区)

No	175	遺跡名	穴井遺跡	所在地	大野郡大野町大字杉園字芝尾
調査原因	中九州横断道路建設			調査期間	2003. 8. 11～2003. 10. 6
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一・山崎文子
調査面積	1,000㎡	時期	旧石器・縄文・弥生・古墳時代	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 大野川の支流である曹川を臨む台地上に位置し、丘陵頂部付近の緩斜面に存在する。旧来の地形が残る場所は本調査区を含むごく一部のみであり、周辺には広大な畑地が広がる。これらの畑地は昭和40年代に開墾されているが、その際に数多くの土器片が出土したと伝えられている。



遺跡の位置(1/25,000「田中」)

遺構 遺跡からは弥生時代後期～古墳時代初頭の方形プランの竪穴住居跡11棟と土坑3基が検出されているのみである。竪穴住居跡は大小2パターンに分けられ、大は4～5本柱、小は2本柱のものが多い。中央には炭・焼土の堆積が確認でき、炉跡が存在することわかる。また、縄文時代晩期の径約1m、深さ約20cm程度の円形を呈する土坑が3基検出されている。縄文時代の遺構は非常に少なく、また、出土遺物も貧弱である。これは、当遺跡の表土自体が黒ボク層であり、堆積よりはむしろ浸食が著しい地形であることに起因しているであろう。また、黒色帯(B.B)中より、径4～5mの範囲に石核・剥片等が分布するブロックが確認されている。このブロックの中心付近には礫群がみられるが、カーボンおよび礫の赤変は確認できなかった。このほかにもブロック内から叩き石と考えられる川原石が出土しており、当時の最小単位の生活空間をうかがい知る上で非常に貴重な成果が得られた。



遺跡全景

遺物 竪穴住居跡から出土する遺物は少ないが丸底複合口縁壺が出土しており、古墳時代初頭をはじめ、それを前後する短期間の時期におさまるものであると考えられる。1号土坑からは、縄文時代晩期の土器片や扁平打製石器片・姫島産黒曜石片などが出土している。また、旧石器時代の遺物として、石核・剥片をはじめ、叩き石と考えられる川原石も確認されている。

まとめ 大野郡一帯の台地上の弥生～古墳時代の集落の様相から本来は現在は畑地となっている周辺台地にも竪穴住居が営まれた集落が存在したものと考えられよう。

No	173	遺跡名	高添遺跡群土木園B地区		所在地	大野郡千歳村大字長峰字土木園
調査原因	中九州横断道路建設				調査期間	2003.4.1～2003.8.18
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	栗原 眞・原田昭一 山本哲哉・山崎文子 井上素裕
調査面積	3,500㎡	時期	弥生・古墳・中世		遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 大野川の支流である茜川流域の千歳盆地北側の高添台地上に位置している。今回の調査区は遺跡のごく一部であり、遺跡は高添台地に広く集落が広がっていたものと考えられる。土木園遺跡は高添台地上の西端に位置し、東には千歳村域最大級の弥生時代後期～古墳時代前期の集落遺跡とされる高添遺跡が広がる。

遺構 弥生時代終末～古墳時代初頭の隅丸方形竪穴住居跡が検出されている。また、16世紀のものとして土師質土器・銅銭等を埋納する土坑や土壇墓、地下式竈等が出土し、戦国期の葬送をはじめとした仏教空間が広がる事がわかる。
このほかにも、中世～近世の掘立柱建物跡20棟以上が検出できた。

遺物 隅丸方形竪穴住居跡から弥生時代終末～古墳時代初頭の壺・甕類の破片が出土し、溝・土坑・戦国期の遺構からは備前焼甕・播鉢、白磁皿、青花、土師質土器皿などを始めとした遺物が出土している。
特に、完形の瓦質椀や銭貨類が出土した土坑や土師質土器皿や銭貨を重ねて廃棄した地下式竈などはそれぞれの遺構を解釈する上で興味深い資料となろう。

まとめ 東に隣接する高添遺跡では、これまでの調査において弥生時代終末～古墳時代初頭の集落が確認されており、今回の調査において、その広がりが土木園遺跡にまで及ぶことが明らかとなった。

また、戦国期の銭貨・土器埋納土坑や地下式竈などは当時の葬送儀礼空間を明らかにするうえでも興味深い成果であった。

このほかにも、本調査区の南側には1町方面の土塁に囲まれた屋敷地が現在にまで続いているが、これに続く本調査区において中世～近世の方形溝に囲まれた掘立柱建物群が確認されたことは、大野郡での戦国期集落の実態を掴むうえで非常に大きな成果であった。これらの生活空間と地下式竈や銭貨・土器埋納土坑は無関係のものとは考えられず、その解釈は今後の課題として残されたものである。



遺跡の位置 (1/25,000 「田中」)



遺跡全景

No	176	遺跡名	穴井南遺跡	所在地	大野郡大野町杉園字萩迫原
調査原因	中九州横断道路建設			調査期間	2004. 2. 26～2004. 3. 11
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	400m ²	時期	弥生・古墳時代	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置

大野川の支流である昔川を臨む台地縁辺に位置している。丘陵頂部の斜面部に集落が広がっていたものと考えられるが、現在はその地形を削平してならし、畑地にしているため、斜面縁辺部のみ遺構がかるうじて確認できる状況であった。



遺跡の位置(1/25,000「田中」)



穴井南遺跡 1号住居跡

遺構 5.5m×3.5mの方形の堅穴住居を検出した。この堅穴住居からは6本の主柱穴と、中央に炉跡が確認でき、炉跡の周囲には炭が集中して分布していた。その埋土中より弥生時代後期の土器片が出土しているほか、人頭大よりやや小さい焼けた礫が数点みられた。

遺物 弥生時代後期の土器片が出土しているほか、特筆すべき遺物としては、床面直上から、舶載鏡（内行花文鏡）の破片が出土している。

まとめ 大野郡一帯の台地上の弥生～古墳時代の集落の様相から本来は複数棟の堅穴住居から集落であったと考えられるが、削平により、かるうじて残された1棟から舶載鏡（内行花文鏡）の破片が出土したことは、特筆すべきことであった。

No	172	遺跡名	高添遺跡群石五道原地区	所在地	大野郡千歳村大字長峰字石五道原
調査原因	中九州横断道路建設			調査期間	2003. 6. 26～2003. 8. 15
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一・山崎文子
調査面積	500m ²	時期	弥生・古墳時代	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

調査の概要

大野川の支流である昔川流域である千歳盆地北側の高添台地上に位置している。今回の調査区は遺跡のごく一部であり、遺跡は高添台地に広く集落が広がっていたものと考えられる。



遺跡の位置(1/25,000「田中」)



遺跡全景（南東から）

遺構は隅丸方形の堅穴住居跡1棟や土坑のほか、ピット群を検出した。弥生時代後期～古墳時代前期の土器が出土する。

現在、高添遺跡では確認出来ているもので200棟近くに及ぶ。当遺跡は、未掘部分も多く、千歳村域最大の集落遺跡とされる六鹿原遺跡をしのぐ大集落とみられる。

No	遺跡名			庵の平遺跡	所在地	大野郡千歳村大字下山字漆生
調査原因	中九州横断道路建設				調査期間	031011～031128
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	原田昭一・山崎文子
調査面積	100㎡	時期	中世		遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 大野川の支流である茜川流域の千歳盆地北側台地の南側斜面に造作した狭い平坦面に位置している。

遺構 斜面の地形を段状平坦に造作し、石造物を置く一角を設けている。現在、石造物群は一般国道57号中九州横断道の用地にかかり、近接地に移転させられているが、千歳村指定有形文化財の笠塔婆をはじめ宝塔2基、五輪塔部材多数が存在していた。石塔造立地は、地山である凝灰岩を段状に削りだし、平坦地を造作している。石塔造立地跡には何も下部構造は発見されておらず、単に石塔を造立したのみであったことがうかがえる。しかし、この石塔造立地跡に向かい、左側には岩盤上に柱穴と考えられる2基の円形ピットが穿たれており、当初は覆屋がかけられていたものと考えられる。しかし、木根の攪乱により、これに対応する右側のピットは確認できなかった。

遺物 出土遺物は、表土中から戦国期の備前焼をはじめ、近世陶磁器などが出土しているが、明確に石造物と結び付く状態では確認できなかった。

まとめ 千歳村指定有形文化財の笠塔婆は、永禄4年(1561)銘がみられ、「当庵中興」とあり、ここに庵が営まれていたことがわかり、また、銘文中の戒名に「座元禅師」とあることから、禅宗僧夫婦の追善供養に伴う供養塔であることがわかる。よって、庵が存在していたことが想定できたため、石造物旧在地の上部畑地に試掘トレンチを入れたが、ここにおいて、深さ15cm程度の耕作土下に凝灰岩の岩盤が検出でき、遺構・遺物は発見できなかった。凝灰岩の岩盤が地山であることから、この平坦地はかなり大規模な造成によるものと考えられ、旧地形は丘陵状地形であったことが想定できる。

笠塔婆をはじめ宝塔2基、五輪塔部材多数も、その型式から戦国期に属することがわかり、大野川中流域での比較的まとまった石造物の調査として一定の成果が得られた。



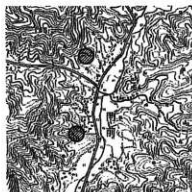
遺跡の位置(1/25,000「田中」)



庵の平遺跡石造物群(移転後)

No	178	遺跡名	佐伯門前	所在地	佐伯市門前
調査原因	東九州自動車道（津久見～佐伯）建設工事			調査期間	030513～040312
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	槇島隆二
調査面積	11,514㎡	時期	縄文・中世	遺物の保管	大分県教育庁埋蔵文化財センター

位置 門前遺跡は佐伯市門前に所在し、調査は中村地区と脇地区の2カ所で行った。中村地区は県道佐伯・津久見線と県道佐伯・弥生線に囲まれた門前川右岸の丘陵から派生した扇状地状の中腹、標高約20～30mに位置する。脇地区は、中村地区の南、約300m丘陵の裾部を削り出した平坦地に位置する。



遺跡の位置(1/25,000「種松」)

遺構 中村地区
 縄文早期 ; 集石 31基
 縄文前(中)期 ; 集石 1基
 脇地区
 中世 ; 柱穴・土坑

遺物 縄文土器片(無文、条痕文…多数 押型文…僅少)
 石器類

まとめ 中村地区では拳大の石を積み重ねた縄文時代早期の集石遺構を31基、前期と思われる集石遺構を1基検出した。集石遺構の周りでは、包含層から縄文時代早期の土器片や石鏃が出土している。

中村地区は谷地形に形成された遺跡で、最頂部では楕円形にめぐる柱穴を確認しており、縄文時代には一種のキャンプ地としての性格があった可能性もある。

脇地区は13～14世紀頃に谷であったところを整地してテラス状の土地を形成し、遺跡を形成しており、中世(13世紀～15世紀代)のものと思われる柱穴や土坑を検出した。遺構からは土師器や陶磁器などが出土した。



集石検出状況

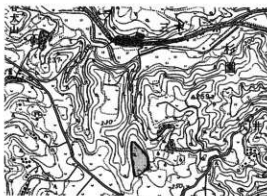
Ⅳ 平成15年度新発見遺跡一覽及び周知遺跡変更一覽

1 新発見遺跡

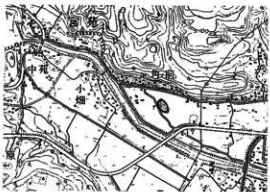
番号	遺跡名	所在地	立地	種別	台帳番号
1	賀米西遺跡	大分市大字賀米	沖積地	集落	322348
2	穴井南遺跡	大野町大字杉園字萩迫原	台地	集落	545237
3	宮苑井ノ口遺跡	大分市大字宮苑字井ノ口	沖積地	包藏地・集落	322349
4	塔ノ元遺跡	玖珠町大字大隈字塔ノ元	沖積地	集落	652107
5	井尻目焼田遺跡	九重町大字松木字井尻	河岸段丘	包藏地	653057
6	野田遺跡	中津市大字犬丸字野田	台地	包藏地・集落	101136
7	伊藤田徳屋遺跡	中津市大字伊藤田字徳屋	沖積地	水田	101135
8	金田遺跡	日田市大字求米里字金田	河岸段丘	包藏地・集落	651244
9	馬下遺跡	中津市大字犬丸字馬下	沖積地	生産遺跡	101137
10	町田立村遺跡(岐部氏館跡)	九重町大字町田字立村	河岸段丘	城館	653058
11	町ノ坪遺跡	日田市大字求米里字町ノ坪	沖積地	集落	651245
12	永山布政所跡	日田市大字丸山	沖積地	代官所	621246



No. 1 賀米西遺跡



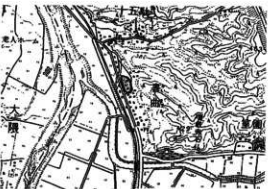
No. 2 穴井南遺跡



No. 3 宮苑井ノ口遺跡



No. 4 塔ノ元遺跡



No. 5 井尻目焼田遺跡



No. 6 野田遺跡



No. 7 伊藤田穂屋遺跡



No. 8 金田遺跡



No. 9 馬下遺跡



No. 10 町田立村遺跡(岐部氏館跡)



No. 11 町ノ坪遺跡



No. 12 永山布政所跡

2 周知遺跡の変更

番号	遺跡名	所在地	立地	種別	台帳番号	変更内容
1	中原敷遺跡	宇佐市大字上田	段丘	集落他	107055	範囲
2	高添遺跡群	千歳村大字高添	台地	集落	546015	範囲
3	下志村遺跡	大分市大字志村字下志村	砂丘	包蔵地・集落	322182	範囲
4	古屋敷遺跡 (旧寺田遺跡)	日田市大字夜明字古屋敷他	河岸段丘	包蔵地	651005	名称
5	上屋敷古墳	豊後高田市大字嶺崎字上屋敷	台地	古墳	102125	場所
6	神ノ原遺跡	直川村大字上直見	丘陵斜面	包蔵地		範囲
7	川原条里遺跡	豊後高田市大字美和	沖積地	集落	102062	遺跡の時代
8	伏野遺跡 (旧堂園古墳)	香々地町大字見目	丘陵	墳墓	112012	名称及び場所
9	小路遺跡 (旧伏野遺跡)	香々地町大字見目	丘陵	墳墓	112013	名称及び 範囲拡大
10	坂口遺跡	香々地町大字見目	低地	集落	112030	場所
11	門田遺跡	香々地町大字香々地	その他	集落	112032	場所
12	旧 小路遺跡	香々地町大字見目	低地	集落	112029	抹消



No. 1 中原敷遺跡 (変更前)



(変更後)



No. 2 高添遺跡 (変更前)



(変更後)



No. 3 下志村遺跡 (変更前)



(変更後)



No. 5 上屋敷古墳 (変更前)



(変更後)



No. 6 神ノ原遺跡 (変更前)



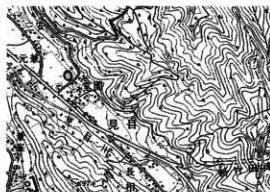
(変更後)



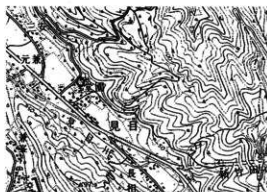
No. 7 川原条里遺跡 (遺跡の時代追加)



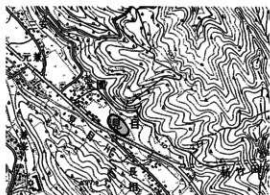
No. 4 古屋敷遺跡 (名称変更・旧寺田遺跡)



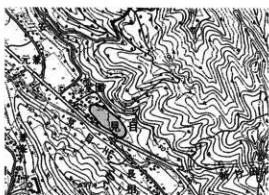
No. 8 堂園古墳 (変更前)



No. 8 伏野遺跡 (所在地・名称の変更)



No. 9 伏野遺跡



小路遺跡 (所在地・名称の変更)



No. 10 坂口遺跡 (変更前)



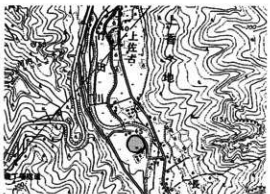
(変更後)



No. 11 門田遺跡 (変更前)



(変更後)



No. 12 旧小路遺跡 (抹消)

V 平成15年度現地説明会・展示会・講演会・シンポジウム・研修

1 現地説明会

名 称	主 催	内 容	期 日	参加人数
法鏡寺庵寺跡 現地説明会	宇佐市教委	調査で発見された古代の掘立柱建物群の説明	040312	50人
城原・里遺跡 第7次調査現地説明会	大分市教委	古代・海部郡街跡の現地説明	031012	200人
鶴崎町遺跡群 現地説明会	大分市教委	近世・肥後藩領鶴崎の舟入の現地説明	031103	100人
若宮八幡宮遺跡 第1次調査現地説明会	大分市教委	弥生～中世の集落跡の現地説明	040328	150人
門前遺跡現地説明会	大分県教委	佐伯市の東九州自動車道建設工事に伴う調査で発見された縄文時代早期の集石遺構等に関する現地説明会	031026	100人
中世大友府内城下町 現地説明会	大分県教委	中世大友時代の城下町の発掘成果の説明	031205～ 031206	1,200人
宮苑井ノ口遺跡 現地説明会	大分県教委	宮苑井ノ口遺跡の調査で発見された埴輪墓群等に関する現地説明会	030923	200人

2 展示会

名 称	主 催	内 容	期 日	会 場	参加人数
大野郡文化財巡回展	大野郡教委 連合会	郡内出土埋蔵文化財の展示	030803～ 030830	千歳村ふる さと資料館	100人
			031101～ 031103	野津町中央 公民館	50人
			040214～ 040215	朝地町公民 館	200人
「みて・知る地域の歴史 と文化」展	竹田市教委	竹田市内を4つの地域に分け、その歴史と 文化を説明	030723～ 030808	竹田市立歴 史資料館別 館「水琴館」	300人
特別展 「照葉樹林に暮らす縄文 人とその交易」	大分市教委	縄文時代の植生及び石器とその交易の展示。 体験コーナーの設置	030529	海部古墳資 料館	1,901人
第22回特別展 「豊後府内南蛮の彩り －南蛮の貿易陶磁器－」	大分市歴史 資料館	南蛮貿易により日本に搬入された貿易陶磁 器の展示	031024～ 031124	大分市歴史 資料館	5,466人
テーマ展示Ⅰ 「自分を見つめる －買米飛鷹の動植物園－」	大分市歴史 資料館	豊後高田市出身の本草学者、買米飛鷹が描 いた動植物園を展示。その科学的な眼差し などを紹介	030419～ 030629	大分市歴史 資料館	3,629人
テーマ展示Ⅱ 「大分西洋物語 －瀧藤太郎を中心に－」	大分市歴史 資料館	没後100年にあたる瀧藤太郎の遺品を中 心にキリスト教や江戸時代の洋学など、大 分と西洋文化の関わりを紹介	030705～ 031013	大分市歴史 資料館	5,400人
テーマ展示Ⅲ 「縄文の宝庫 －横尾遺跡－」	大分市歴史 資料館	黒曜石を納めた日本最古のカゴが発見され るなど、近年話題を集めている縄文時代の 遺跡、大分市の横尾遺跡を紹介	031206～ 040201	大分市歴史 資料館	2,501人
テーマ展示Ⅳ 「江戸の楽しみ －版画の世界－」	大分市歴史 資料館	江戸時代中期から流行した浮世絵を、特に 美人画、役者絵、風景画を中心に展示	040207～ 040404	大分市歴史 資料館	3,441人
「いれる・たてる・あじわう －東アジアの お茶の歴史と文化」	別府大学附 属博物館ア ジア文化歴 史研究所	「茶」をキーワードに東アジアの歴史と文 化を考える	020110～ 030428	別府大学附 属博物館新 館展示ホル ル	約400人
森中央小学校生徒 発掘調査出土品見学会	玖珠町教委	玖珠町内で出土した金環や勾玉、管玉や馬 具など町教委所蔵の珍しい副葬品を展示し、 説明。	030519	玖珠町文化 財資料室	57人
平成14年度 埋蔵文化財発掘調査 速報展	日田市教委	平成14年度に日田市内で行った発掘調査成 果の公表	030519～ 030627	日田市埋蔵 文化財セン ター	425人

名 称	主 催	内 容	期 日	会 場	参加人数
企画展 「埴輪で飾られた前方後円墳 ―磐井の乱前後の 北部九州―	日田市教委	朝日天神山古墳群の県指定史跡申請にあわせて、古墳時代後期の北部九州の前方後円墳出土の埴輪等を展示	031004～ 031128	日田市埋蔵文化財センター	325人
第2回埋蔵文化財出張展示 「掘ったばい大鶴展」	日田市教委	大鶴地区ふるさとまつりに合わせて、同地区での埋蔵文化財発掘調査成果を公表	031115	静修小学校	209人
平成15年度 「おおい交流の歴史」展	大分県教委	地域間交流にもたらされた古代から中世の遺物の展示	030802～ 030820	大分県農業文化公園	2,707人

3 講演会・シンポジウム

名 称	主 催	講 師	内 容	期 日	会 場	参加人数
市民環境歴史講座「弥生文化を受け入れた縄文人」	宇佐市教委	宮内克己	弥生時代と縄文時代の特性を比較することで、日本文化の基盤である水田稲作が受け入れられた過程を解説	030614	別大研究センター	74人
市民環境歴史講座「異文化習合としての八幡信仰」	宇佐市教委	飯沼賢司	古代宇佐の豪族の動向を八幡神の性格から考察し、併せて仏教との習合の過程を解説	030712	別大研究センター	78人
市民環境歴史講座「山本・鷹栖周辺の遺跡の保存」	宇佐市教委	林一也	虚空蔵寺跡周辺の文化財の説明と調査で確認した遺跡の整備について解説	040117	別大研究センター	52人
第7回「戦争遺跡保存全国シンポジウム」宇佐大会	宇佐市教委	水原慶二他	全体集会以一橋大学名誉教授水原慶二先生の記念講演「戦争遺跡と歴史認識」等があり、その後4分科会に分かれ29項目について研究発表を行った。	030823 ～ 030824	ウサノピア小ホール他	300人
八幡シンポジウム「清麻呂・道鏡と八幡神」	宇佐市教委	飯沼賢司 幾島一恵 日笠民子 岩濠友樹子	「道鏡事件」をとおして宇佐の古代史の魅力を明らかにし、また歴史を生かした地域間交流の可能性を探った	031220	ウサノピア小ホール	200人
高添遺跡発掘調査概要報告会	千歳村教委	豊田徹士	平成14・15年度発掘調査された高添遺跡の概要を、パワーポイントとビデオプロジェクターを使い報告	040421	千歳村中央公民館	100人
ふるさとの歴史再発見講座 「歴史」のコース	大分市歴史資料館	武富雅宣	大分の酒づくり	030405	大分市歴史資料館	98人
		藤沢敏夫	奇跡の逆転人生立花宗茂	030412		95人
		長田弘通	大友氏の南蛮貿易について	030419		88人
		中西義昌	城郭にみる16世紀の豊後・大分	030510		83人
		大津裕司	キリスト教史―信仰と弾圧の側面	030517		76人
		鹿毛敏夫	C G 復元大友館と豊後万寿寺	030524		64人
		平川綾	江戸時代の村と暮らし	030607		82人
		松村紅実子	歴史をヒントに町づくり―よみがえれ天正ロマン	030614		70人
		後藤重巳	特別講演「もの申すー江戸時代末期の社会事情」	030621		70人
		木村幾太郎	はたして弥生時代は700年も遡るのか	030705		72人
ふるさとの歴史再発見講座 「考古」のコース	大分市歴史資料館	神田高士	戦国時代の府内と臼杵	030712	60人	
		坂本嘉弘	中世大友府内城下町を掘る	030719	67人	
		甲斐猛	弥生～古墳時代の玉類について	030802	62人	
		吉田寛	大分市東田室遺跡の発掘調査	030809	52人	
		坪根伸也	大分市の先史時代遺跡と県民性	030816	55人	
		高島豊	江戸のリサイクル―焼き糺ぎについて	030906	58人	
		小畑弘巳	特別講演「古代・中世の銭の話」	030913	69人	
		田中裕介	大分の古代道路	030920	62人	

名 称	主 催	講 師	内 容	期 日	会 場	参加人数
大友氏関連連続講座 第22回特別展記念講演会 ふるさとの歴史 再発見講座 「民俗・文化史」のコース	大分市歴史 資料館	加藤知弘	宗麟時代の府内の国際貿易港	031026	大分市歴史 資料館	53人
		神戸輝夫	宗麟時代の府内の国際貿易一	031103		68人
		吉田寛	豊後府内出土の貿易陶磁器	031116		58人
		亀井明徳	カラフルで愛らしい やきものの謎	031109		47人
		後小路雅弘	特別講演「近代九州の美術とアジア」	031101		58人
		宮崎治	瀧廉太郎と大分	031108		77人
		金賛會	百合若伝説と韓国文化	031119		63人
		菅野剛宏	世相と民俗	031206		62人
		小宮裕宣	昭和ロマンとおもちゃ	031213		59人
		段上達雄	文化財としての民俗と村おこし	031216		64人
考古学講座 「タイムトリップひた VOL.1」	日田市教委	下村智	日田市の考古学概論 -弥生・古墳時代の日本・九州・日田-	030528	日田市埋蔵 文化財セン ター	30人
		行時圭子	米作りの開始と弥生人の生活	030611		31人
		渡邊隆行	弥生のムラと日田の王墓	030625		25人
		酒井恵	古代の埴（ほむら） - 人が火を手にするまで-	030709		20人
		園田恭一郎	現場へ行こう -発掘現場はどんなとこ-			
		田中伸幸	土中の闇に光を -発掘から展示まで-			
		梶原秀彦	クニの誕生 -吉野ヶ里から小迫辻草へ-	030723		28人
		若杉竜太	壺で飾られた前方後円墳 -朝日天神山古墳群の謎に迫る-	030806		17人
		土居和幸	古墳に描かれた絵画の世界	030910		24人
原田勝宏	考古学の楽しみ方・私流 -石器との出会い-	030917	20人			

4 研 修

名 称	主 催	場 所	内 容	期 日	参加人数
第1回文化財講座	竹田市教委	岡城跡・津賀牟礼城跡	中世城郭(津賀牟礼城)と近世城郭(岡城)	030426	7人
第2回文化財講座		竹田市立歴史資料館別館水琴館・キリシタン洞窟礼拝堂	岡城跡の縄張と曲輪の説明。 キリシタン洞窟礼拝堂を現地で説明	030607	6人
第3回文化財講座		白水溜池堰堤・岩戸橋	白水溜池堰堤・岩戸橋(荻町)の現地見学	030702	9人
第4回文化財講座		竹田市内各所	岩瀬観音堂石造宝塔・井手ノ上石幢の現地説明	030802	11人
第5回文化財講座		竹田市内各所	妙見寺磨崖不動明王・碧雲寺線刻磨崖仏・上畑釈迦堂磨崖仏・上畑磨崖仏の説明	030906	9人
第6回文化財講座		竹田市内各所	竹田市の天然記念物(小富士神社・片ヶ瀬唐椿・霧島ツツジ・七ツ森古墳群)	031101	9人
第7回文化財講座		竹田市内各所	竹田市北部の石造物(小高野の宝きょう印塔)を現地で説明	031206	6人
第8回文化財講座		竹田市立歴史資料館別館水琴館	竹田市北部の石造物(小高野の宝きょう印塔・小仲尾の石造物・植木の地藏塔・植木の多宝塔)の説明	040207	6人
第9回文化財講座		竹田市内各所	竹田市北部の石造物(小高野の宝きょう印塔・小仲尾の石造物・植木の地藏塔・植木の多宝塔)の説明	040306	8人
歴史博物館特別見学会	久住町教委	大分県立歴史博物館	特別展の見学	031024	21名
開発関係部局 担当者研修会	大分県教委	県文化課文化財資料室	県土木建築部等開発局担当職員の文化財に関する諸手続等についての研修	030710	59名
初任者研修会(小学校)	大分県教委	県文化課文化財資料室	新任教師に対し「文化財からのメッセージ」と題し、文化財の保存と活用等の講義と発掘調査体験を実施	031016	36名
初任者研修会(中学校)		及び中世大友府内城下町跡発掘調査現場		031023	21名
初任者研修会(県立学校等)				031009	49名
県文化財担当者 事務説明会	大分県教委	県文化課文化財資料室	文化財に関する諸手続等その他の研修	030703- 030704	70名

VI 平成15年度発行の埋蔵文化財関係文献一覧

A 県教育委員会

- ・西哲弘編『大分県文化財年報』12 平成14(2002)年度版 2004-3
- ・後藤一重『久末京道遺跡』(大分県文化財調査報告書第162輯)2004-3
- ・吉田寛・後藤晃一『上野町遺跡・顕徳寺』(大分県文化財調査報告書第164輯)2004-3
- ・清水宗昭・西哲弘・高橋信武『黒岩遺跡』(大分県文化財調査報告書第165輯)2004-3
- ・横高隆二『東大道遺跡(A地区)』(大分県文化財調査報告書第166輯)2004-3
- ・綿貫俊一・山本哲也『榎牟礼城跡-角木中世集落跡-』(大分県文化財調査報告書第167輯)2004-3
- ・高橋徹・高橋信武『玉沢地区糸里跡』(大分県文化財調査報告書第168輯)2004-3
- ・生野令子・高橋信武『杵築城下町遺跡』(大分県文化財調査報告書第169輯)2004-3
- ・小柳和宏『大分の中世城館』第四集総論編(大分県文化財調査報告書第170輯)2004-3
- ・『大分の中世城館』別冊総合索引2004-3
- ・甲斐寿義『長湯横穴墓群 桑畑遺跡』(大分県文化財調査報告書第171輯)2004-3
- ・五十川雄也・高橋信武『上門手遺跡』(大分県文化財調査報告書第172輯)2004-3

B 大分県立歴史博物館

- ・『大分県立歴史博物館年報2002』2003-5
- ・櫻井成昭編『豊後国安岐郷の調査 本編』(大分県立歴史博物館報告書8)2004-3
- ・櫻井成昭編『豊後国安岐郷の調査 資料編補遺』(大分県立歴史博物館報告書9)2004-3

C 市町村教育委員会

- ・若杉竜太『三和教田遺跡I地点』(日田市埋蔵文化財調査報告書44)日田市教育委員会2003-7
- ・若杉竜太『大肥祝原遺跡 大肥上村遺跡』(日田市埋蔵文化財調査報告書45)日田市教育委員会2003-7
- ・土居和幸『日田糸里四反畑地区』(日田市埋蔵文化財調査報告書46)日田市教育委員会2003-8
- ・中西武高・坪根伸也・武富雅宣編『豊後府内 南蛮の彩り-南蛮の貿易陶磁器-』(平成15年度秋期(第22回)特別展図録)大分市歴史資料館2003-10
坪根伸也「東南アジア産陶磁器と豊後府内」P73-80
木村幾多郎「いわゆる「トラディスカント壺」について」P81-89
- ・花崎徹『諸田遺跡岩丸地区』(中津市文化財調査報告書第31集)中津市育委員会2003-11
- ・行時桂子『平成14年度(2002年度)日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会2003-12
- ・若杉竜太『日田糸里大原地区』(日田市埋蔵文化財調査報告書47)日田市教育委員会2004-2
- ・高橋信武『入蔵遺跡』(野津原町文化財調査報告書第3集)野津原町教育委員会2004-3
- ・高崎章子『中津城下町遺跡 殿町地区』(中津市文化財調査報告書第32集)中津市育委員会2004-3
- ・花崎徹『中津城下町遺跡 殿町奥平孫次郎屋敷跡』(中津市文化財調査報告書第33集)中津市育委員会2004-3
- ・高崎章子・津井直幸『大浦南遺跡 沖代地区糸里跡矢永地区・五堆地区 中津城本丸南西石垣(Ⅲ)』(中津市文化財調査報告書34)中津市育委員会2004-3
- ・渡邊隆行『大肥吉竹遺跡』(日田市埋蔵文化財調査報告書48)日田市教育委員会2004-3
- ・行時桂子『石ヶ迫遺跡』(日田市埋蔵文化財調査報告書49)日田市教育委員会2004-3
- ・渡邊隆行『大肥遺跡I-A-1区の調査の記録-』(日田市埋蔵文化財調査報告書50)日田市教育委員会2004-3
- ・若杉竜太『本村遺跡3次』(日田市埋蔵文化財調査報告書51)日田市教育委員会2004-3
- ・下村智・土居和幸編『吹上Ⅱ-9-11次調査の記録-』(日田市埋蔵文化財調査報告書52)日田市教育委員会2004-3
- ・諸岡郁『三重地区遺跡群発掘調査概報』Ⅷ 三重町教育委員会2004-3
- ・佐伯治『史跡岡城跡XX 平成15年度史跡岡城跡修理事業報告書』竹田市教育委員会2004-3
- ・佐伯治『史跡岡城跡XXI 平成15年度史跡岡城跡修理(災害復旧)事業報告書』竹田市教育委員会2004-3

D 市町村史等

E 大学関係

G 県内雑誌等

- ・『おおいた考古』14 大分県考古学会2003-9
小田富士雄「賀川光夫先生を偲ぶ」P1~2
後藤重己「口八丁手八丁な奇人-鳥養君のこともも-」P9~10
高倉洋彰「九州の考古学と賀川光夫先生」P13~30
金田信子「国史跡安国寺集落遺跡の整備と活用」P31~42
菊田徹「臼杵磨崖仏の保存修理と公開・活用」P43~58
後藤宗俊「賀川光夫先生と大野川流域の遺跡」P59~68
- ・『大分県地方史』189 大分県地方史研究会2003-10
波津久文芳「三重大原台地の古代直線道」P1~24
- ・『西南戦争之記録』2 西南戦争を記録する会2003-11
- ・『二豊の石造美術』23, 大分県石造美術研究会2004-1
江藤和幸「宇佐市内における納経塔の調査報告(1)」P36~61

H 九州内雑誌等

- ・『Stone Sources』2 石器原産地研究会2003-5
塩地調一・小住武史・羽田野裕之「大分市横尾遺跡出土のカゴに収納された姫島産黒曜石について」
- ・『古文化談叢』50(上) 九州古文化研究会2003-6
原田昭一「板碑集成(その2, 豊前)」P225~
- ・『戦国時代の考古学』高志書院2003-6
玉水光洋「大友府内町」P101~114
佐藤浩司「西国における在産土器の生産と流通」P409~406
- ・『九州旧石器』7 九州旧石器研究会 2003-11
志賀智史「大分県における槍先形尖頭器の出現と消滅」
萩 幸二「丹生遺跡群長迫地点採集の石器」
志賀智史「大分県の動向」
- ・『Stone Sources』3 石器原産地研究会2003-12
角縁 進「姫島の地質と岩石について」
志賀智史「旧石器時代の姫島と姫島産石材」
綿貫俊一「姫島産黒曜石の流通-大型石核・中型石核、集積遺構-」
塩地調一「大分県大分市横尾遺跡の発掘調査」
水ノ江和同「土器からみた縄文時代の交流圏と動態-豊後水道周辺を中心として-」
萩 幸二「縄文時代の大分県域の石材利用」
小南裕一「中四国における姫島産黒曜石の流通-縄文時代を対象として-」
島中宏一「高知県における姫島産黒曜石の出土状態」
綿貫俊一「石材・姫島産黒曜石の終焉」
吉留秀敏「北部九州における姫島産黒曜石の流通」
岩谷史記「熊本県域における姫島産黒曜石の利用状況」
立神勇志「鹿児島・宮崎県の縄文時代早期における姫島産黒曜石製石器出土遺跡」
第3回研究会事務局「石器原産地研究会第3回研究会報告」
- ・『九州考古学』78 九州考古学会 2003-12
下村智・吉田和彦・玉川剛司「古墳におけるデジタル測定の研究-大分県下の古墳を事例として-」
- ・『古文化談叢』50(下) 九州古文化研究会2004-1
原田昭一「中世墓の終焉について」P228~229
小柳和宏「大分の青銅器-出土状況の再検討-」P234~235
池邊千太郎「豊後の須恵器松岡窯跡の調査」P236~237
- ・『シボウム』
陶磁器が語る文壇-九州・沖縄から出土した東海ア77産陶磁器- (東南アジア考古学会・九州国立博物館談話推進本部・鹿児島大学埋蔵文化財調査室) 2004-1
吉田寛「大分・府内から出土した東南アジア産陶磁」P31~46
- ・『九州における縄文時代のおとし穴状遺構』(14回九州縄文研究会国分大会資料)九州縄文研究会・南九州縄文研究会 2004-2
高橋信武「九州の陥し穴」P6~7
今田秀樹「大分県のおとし穴状遺構」P150~176

- ・『西南四国—九州間の交流に関する考古学的研究』（科学研究費補助金調査成果報告書）2004—3
坪根伸也「豊後における古式土師器の成立と展開」
坪根伸也「豊後における石庖丁の展開」

I 九州外雑誌等

- ・『聖嶽洞窟遺跡検証報告』日本考古学協会2003—10
- ・『日本考古学年報』54（2001年度）日本考古学協会2003—5
坪根伸也「大分県」P 320—325
- ・『考古学ジャーナル』503、ニューサイエンス社2003—6
芹沢長介「前期旧石器研究」P 1—54（早水台）
- ・『季刊考古学』84、雄山閣2003—8
高橋徹「弥生終末期の高地性集落」P 71—74
- ・『東洋陶磁学会会報』第50号 2003—9
吉田寛「九州地方」P 10—11
- ・『貿易陶磁研究』23 貿易陶磁研究会 2003—9
吉田寛「中世大友府内町跡出土の産地不明焼締陶器について」P 50—57
- ・『関西近世考古学研究』X I 2003—12
吉田寛「豊後府内」P 195—200

補遺

- ・『二豊の石造美術』20、大分県石造美術研究会2000—10
渡辺文雄「大分川流域の磨崖仏」P 6—33
永松郁朗「国東塔の特色とその見方」P 40—62
- ・『大分市埋蔵文化財調査年報』11（1999年度）、大分市教育委員会2000—12
- ・『古文化談叢』46 九州古文化研究会2001—5
村上久和「大分県瀬戸墳墓群の調査について」P 154—156
小田富士雄「大分市上野廃寺の古瓦について」P 159
原田昭一「九州・山口における中世「地下式竈」の諸様相」P 159—160
- ・『唐澤考古』20 唐澤考古会2001—5
遠部慎「九州石刀・石剣小考」P 1—18
- ・『四国と周辺の土器—砲塔の生産と流通— 第3回四国徳島城下町研究会発表要旨・資料集』2001—7
吉田寛「九州東部」P 291—300
- ・『臼杵史談』92 臼杵史談会2001—12
菊田徹「賀川光夫先生の死を悼んで」P 1—5
- ・佐伯治「史跡岡城跡X VII 平成13年度史跡岡城跡修理事業報告書」竹田市教育委員会2002—3
- ・『考古学ジャーナル』485、ニューサイエンス社2002—3
後藤典幸・荻幸二「玉沢地区条里跡遺跡第2次調査」P 24—26
- ・『二豊の石造美術』21、大分県石造美術研究会2002—3
菊田徹「五輪塔の特色とその見方—臼杵地方を中心として—」P 20—47
内恵克彦「天瀬町の石造美術」P 50—57
- ・『古文化談叢』48 九州古文化研究会2002—5
後藤晃一「九州縄文時代注口土器の研究」P 1—34
原田昭一「板碑集成（その1、豊後南部）」P 109—148
木村幾多郎「韓国新石器時代結合式釣針考」P 149—174
- ・『九州旧石器—下川達彌先生還暦記念特集号—』6 2002—11
宮田 剛「九州各県の動向—大分県—」
總貫俊一「九州の旧石器時代後期初頭石器群」
荻 幸二「九州地方の角錐状石器の製作技術に関する一考察（2）」
- ・『大分市埋蔵文化財調査年報』13（2001年度）、大分市教育委員会2002—12
- ・『二豊の石造美術』22、大分県石造美術研究会2003—3

江藤和幸「史指定文化財「地藏石仏」の調査報告」P 6～10
長田大輔「野津市のキリシタン墓碑とその問題点」P 12～23
内恵克彦「宝篋印塔の形式と豊後地方の特色」P 24～30
衛藤忠義「宝篋印塔の特色とその見方」P 32～63
江藤和幸「宝塔・多宝塔の特色とその見方」P 64～85

- ・「国東町歴史体験学習館年報 平成13年度」国東町歴史体験学習館2003-3
- ・池邊千太郎『下郡横穴墓群』大分市教育委員会2003-3
- ・萩浩二ほか『玉沢地区条里跡-第6次発掘調査報告-』大分市教育委員会2003-3
- ・河野史郎『府内城・城下町跡-第14次発掘調査報告-』大分市教育委員会2003-3
- ・今田秀樹編『高瀬川遺跡・亀石山遺跡』(天瀬町埋蔵文化財調査報告7) 2003-3
- ・佐伯治「史跡岡城跡XVIII 平成13・14年度史跡岡城跡修理事業報告書」竹田市教育委員会2003-3
- ・佐伯治「史跡岡城跡XIX 平成14年度史跡岡城跡修理(災害復旧)事業報告書」竹田市教育委員会2003-3
- ・「国東町歴史体験学習館年報 平成13年度」国東町歴史体験学習館2003-3
- ・「埴輪工人の移動からみた古墳時代前半期における技術交流の政治史的研究」(科学研究費補助金研究成果報告書) 東京国立博物館2003-3
田中裕介「九州地区の概要-大分県-」P 9～11
田中裕介・古谷毅「大分県亀塚古墳」P 24～26
服部真和・古谷毅「大分県御陵古墳」P 27～29
- ・「山口大学考古学論集-近藤喬一先生退官記念論文集-」2003-3
吉田寛「近世府内城・近世府内城下町跡出土瓦の編年的研究」P 339～364

大分県埋蔵文化財年報13 平成15(2003)年度版

平成 17 年 3 月 31 日発行

編集・発行者 大分県教育庁埋蔵文化財センター
〒870-1113 大分市大字中判田1977番地
TEL 097-597-5675

印刷所 有限会社 元屋印刷